

地底の森ミュージアム・縄文の森広場年報

2019

仙台市富沢遺跡保存館
SENDAI CITY TOMIZAWA SITE MUSEUM

仙台市縄文の森広場
SENDAI CITY JOMON SITE PARK

はじめに

地底の森ミュージアム（仙台市富沢遺跡保存館）は、2万年前の旧石器時代のたき火跡と森林跡を発掘したままの状態でも保存・公開し、当時の景観を「氷河期の森」として野外に復元している施設です。平成8年に開館し、これまでに92万人を超える方々にご利用いただきました。また、姉妹館である仙台市縄文の森広場は、縄文時代の集落跡が発見された山田上ノ台遺跡を保存・活用する目的で、平成18年に開館し、今年4月で体験学習活動を含めた利用者は40万人を超えました。

地底の森ミュージアムでは平成30年度の事業として、旧石器時代の常設展示のほか、特別企画展「米づくりはじめました」など年4回の企画展、「氷河期の森」の維持管理をはじめとして、ミュージアムの特性を体感できる各種の講座や体験学習、季節ごとのイベント、仙台市縄文の森広場と連携して市内小・中学校を対象とした利用学習、職場体験、博物館実務実習などを開催しました。また、当館の特色でもある市民文化財研究員やボランティア育成などの事業、自主事業である「親子でつくろう古代米」・「ミュージアム・シアター『狩人登場！』」などを実施しました。さらに、ボランティア会と共催し、地域住民との交流を図る「地底の森フェスタ2018」を開催したほか、大学生のサポーターや市内高校生の活動協力を得ながら、館活動の展開を図っています。

仙台市縄文の森広場では、児童生徒やご家族連れが土器や勾玉づくりなどの多彩な体験活動に取り組んだほか、縄文文化に関する各種教室・講座など、市民参加による様々な事業を実施しました。恒例となった年4回の縄文まつりでも、歴史的な空間の中で、地域の小・中学生や市民とともに楽しく有意義な交流を行うことができました。また、自主事業である「縄文のまつり復元と創造プロジェクト『草舟づくり』・『縄文人の記憶の宴』」や「ドキ土器チョコレート」・「土器を食べちゃえ！～土器片形クッキー“ドッキー”をつくろう～」などを実施しました。

地底の森ミュージアムと仙台市縄文の森広場は、テーマミュージアムとしての専門性を深めるのみならず、運営懇談会を開催するなどして市民ニーズに対応した新たな取り組みを行い、「人間と環境」を考えるランドマークとなるような事業展開を目指します。また、先人の知恵に学ぶという観点から、両館が相互に補完し合う施設としてさらに連携、協力を図りながら、歴史を継承するための事業を進めてまいります。

今後も、歴史的資源としてのみならず、豊かな地域資源としての可能性を開発していくためにも、両館の事業展開に多方面の皆様方の益々のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和元年9月

仙台市教育委員会
教育長 佐々木 洋

(公財)仙台市市民文化事業団
仙台市富沢遺跡保存館
仙台市縄文の森広場
館長 身崎 尚

目 次

はじめに
目次
例言

地底の森ミュージアム・仙台市縄文の森広場

| | |
|---------------|---|
| 1. 施設の概要 | 1 |
| 2. 組織・運営 | 1 |
| 3. 沿革 | 2 |
| 4. 整備の目的と基本方針 | 8 |

〔地底の森ミュージアム〕

| | |
|---------------------|----|
| 1. 平成30年度事業報告 | 12 |
| (1) 展示事業 | 12 |
| (2) 普及啓発事業 | 15 |
| (3) 調査・研究事業 | 21 |
| 2. 施設管理 | 22 |
| (1) 定例保守 | 22 |
| (2) 建物・設備などの修繕 | 22 |
| 3. 利用状況 | 22 |
| 4. 入館者アンケート | 23 |
| 5. 平成31年度・令和元年度事業計画 | 25 |
| (1) 展示事業 | 25 |
| (2) 普及啓発事業 | 25 |
| (3) 調査・研究事業 | 27 |
| (4) 縄文の森広場との連携事業 | 27 |
| (5) 資料の収集・保管 | 27 |
| (6) 管理運営 | 27 |
| (7) 刊行物 | 28 |
| 6. 利用案内 | 28 |

〔仙台市縄文の森広場〕

| | |
|---------------------|----|
| 1. 平成30年度事業報告 | 30 |
| (1) 展示事業 | 30 |
| (2) 普及啓発事業 | 32 |
| (3) 体験活動事業 | 38 |
| (4) ボランティア活動事業 | 39 |
| (5) 調査・研究事業 | 40 |
| 2. 利用状況 | 41 |
| 3. 入館者アンケート | 42 |
| 4. 平成31年度・令和元年度事業計画 | 43 |
| (1) 展示事業 | 43 |
| (2) 普及啓発事業 | 44 |
| (3) 調査・研究事業 | 45 |
| (4) 資料の収集・保管 | 45 |
| (5) 管理運営 | 45 |
| (6) 刊行物 | 45 |
| 5. 利用案内 | 46 |

例 言

1. 本書は、公益財団法人仙台市市民文化事業団が仙台市より指定を受け、平成30年度に実施した仙台市富沢遺跡保存館指定管理業務(仙台市縄文の森広場を含む)の各事業などに係る実施報告と、平成31年度・令和元年度事業計画である。
2. 本書の編集は地底の森ミュージアムの平塚幸人、仙台市縄文の森広場の武山剛久が行った。

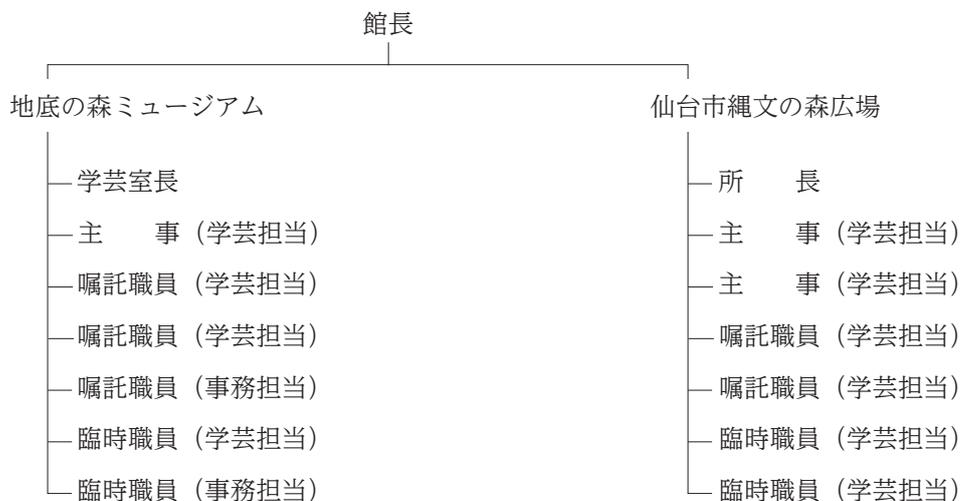
地底の森ミュージアム・仙台市縄文の森広場

1. 施設の概要

| | 地底の森ミュージアム | 仙台市縄文の森広場 |
|------|--|---|
| 開館日 | 1996年(平成8年)11月2日 | 2006年(平成18年)7月15日 |
| 設置場所 | 〒982-0012 仙台市太白区長町南四丁目3-1 | 〒982-0815 仙台市太白区山田上ノ台町10-1 |
| 敷地面積 | 14,263㎡ | 27,350.94㎡ |
| 延床面積 | 2,743㎡ | 1,211.78㎡ |
| 建築構造 | 地下1階 地上1階 鉄骨鉄筋コンクリート | 鉄筋コンクリート造一部2階建 |
| 特徴 | <p>建物は、コンクリート打放しの楕円形をしている。周囲の壁は地下の遺跡の保存と公開のために、建物基礎を兼ねた厚さ80cmの連続地中壁であり、それを地下20mまで築いて地下水を遮断する構造である。</p> <p>建物内部については、地下の遺跡展示室は柱のない広がりをもった大空間となっており、中地下も含めて、床にはアスファルトブロックが敷かれ、照明を抑えて清謐な雰囲気になっている。対照的に1階は床を板張りとし、自然光を取り入れた明るい空間となっている。中でも、来館者にとっては最後の空間となる展望ラウンジは窓を大きくとり、そこからは野外展示の氷河期の森が眺められるようになっている。</p> | <p>野外には、復元した竪穴住居3棟を中心にその他の遺構を表示し、環境とともに集落を再現した縄文ムラゾーンと、未調査区でイベントや発掘体験などを行う広場ゾーンがある。</p> <p>その北側の一角に出土資料などを展示し、各種体験活動ができるガイダンス施設を付設している。</p> |

2. 組織・運営

両館の管理・運営は、仙台市より平成29年度から令和3年度までの5ヶ年間の指定管理者に指定された公益財団法人仙台市民文化事業団が行っている。平成31年4月1日時点の職員配置は下記のとおりである。



なお、地底の森ミュージアムは受付・案内業務、常駐警備業務、清掃業務を、仙台市縄文の森広場は清掃および復元住居の火焚き業務を民間に委託している。

3. 沿革

| | 地底の森ミュージアム | 仙台市縄文の森広場 |
|----------------|--|--|
| 1980年 昭和55年 | | 宅地造成にともなう山田上ノ台遺跡の発掘調査で、縄文時代中期末を主とする竪穴住居跡などの多数の遺構が発見され、集落構造の全体がわかる遺跡の重要性から保存を決定する。 遺跡の活用を図るための「(仮称)原始古代村構想」の検討がスタートする。 |
| 1982年 昭和57年 | 地下鉄建設にともなう試掘調査で富沢遺跡が発見される。 | |
| 1984年 昭和59年 | | 旧石器時代資料の充実を図るために第2次調査を実施する。 |
| 1988年 昭和63年 | 富沢遺跡第30次発掘調査において2万年前の人類の生活跡と森林跡が発見され、仙台市は遺跡の重要性に鑑み、小学校の建設地を変更し保存と活用を判断。 | |
| 1989年 平成元年 | 保存科学・地質学・遺跡整備・都市工学・動物生態学など各界の学識者からなる基本構想策定委員会を設置し、富沢遺跡と山田上ノ台遺跡とともに活用する方針で「仙台市旧石器の森・原始古代村の整備および仙台市考古系総合博物館基本構想報告書」を策定。 | |
| 1990年 平成2年 | 「基本構想」において検討課題であった遺跡の保存処理工法について「富沢遺跡保存技術調査報告書」(仙台市考古系総合博物館基本計画)を策定。 | |
| 1991年 平成3年 | 「(仮称)原始古代村・旧石器の森整備基本計画」を策定。 | |
| 1992年 平成4年 | 富沢遺跡保存館の建築基本設計、展示基本設計、富沢遺跡保存処理方式開発の業務委託、氷河期の森広場整備基本設計を行った。 | |
| 1993年 平成5年 | 富沢遺跡保存館の建築・展示実施設計、氷河期の森広場整備実施設計、遺構保存処理システム策定業務委託を行った。 | |
| 1994年 平成6年 | 富沢遺跡保存館の建設工事に着工。 | |
| 1995年 平成7年 | 正式名称が「仙台市富沢遺跡保存館」、愛称が市民公募をもとに「地底の森ミュージアム」と決定。 | |
| 1996年 平成8年 | 4月1日より富沢遺跡保存館の管理・運営は仙台市より委託された(財)仙台市歴史文化事業団があたることとなり、その組織ができた。建築工事および展示工事が3月に完了。また、遺構保存処理作業は8月、「氷河期の森」の造成工事は8月、植栽工事は10月に完了。11月2日に開館する。 | |
| 1997年 平成9年 | 5月18日 天皇皇后両陛下ご来館。 | |
| 1998年 平成10年 | 3月7日 入館者10万人達成。 | |
| 2000年 平成12年 | 4月15日 入館者20万人達成。 | 山田上ノ台遺跡の活用整備のために「縄文の森広場基本計画策定委員会」が設置される。 |
| 2002年 平成14年 | 8月24日 入館者30万人達成。 | 第3次発掘調査により後期旧石器時代の石器が多数発見される。 |

| | | |
|----------------|--|-------------------------------------|
| 2004年 平成16年 | 4月1日 管理・運営する(財)仙台市歴史文化事業団が(財)仙台市市民文化事業団に統合されたことにより、事業団が指定管理者となる。 | 「仙台市縄文の森広場」の建設工事が始まる。 |
| 2005年 平成17年 | 5月19日 入館者40万人達成。 | |
| 2006年 平成18年 | | 「仙台市縄文の森広場」が完成。7月15日に開館する。 |
| 2007年 平成19年 | 9月11日 入館者50万人達成。 | 7月15日 開館1周年記念イベント開催(記念植樹や演奏会などで祝う)。 |
| 2009年 平成21年 | | 5月4日 入館者10万人達成。 |
| 2010年 平成22年 | 6月12日 入館者60万人達成。 | |
| 2011年 平成23年 | 3月11日 東日本大震災により休館。 | |
| | 6月14日 再開。 | 4月12日 再開。 |
| 2012年 平成24年 | 4月1日 管理・運営する(財)仙台市市民文化事業団が公益法人となる。 | |
| | | 8月7日 入館者20万人達成。 |
| 2013年 平成25年 | 9月14日 入館者70万人達成。 | |
| 2015年 平成27年 | | 11月3日 入館者30万人達成。 |
| 2016年 平成28年 | 6月12日 入館者80万人達成。 | |
| 2017年 平成29年 | 2月18日・19日 地底の森ミュージアム 開館20周年・仙台市縄文の森広場 開館10周年を記念して、シンポジウムを開催。 | |
| 2018年 平成30年 | 9月22日 入館者90万人達成。 | |
| 2019年 平成31年 | | 4月30日 入館者40万人達成。 |

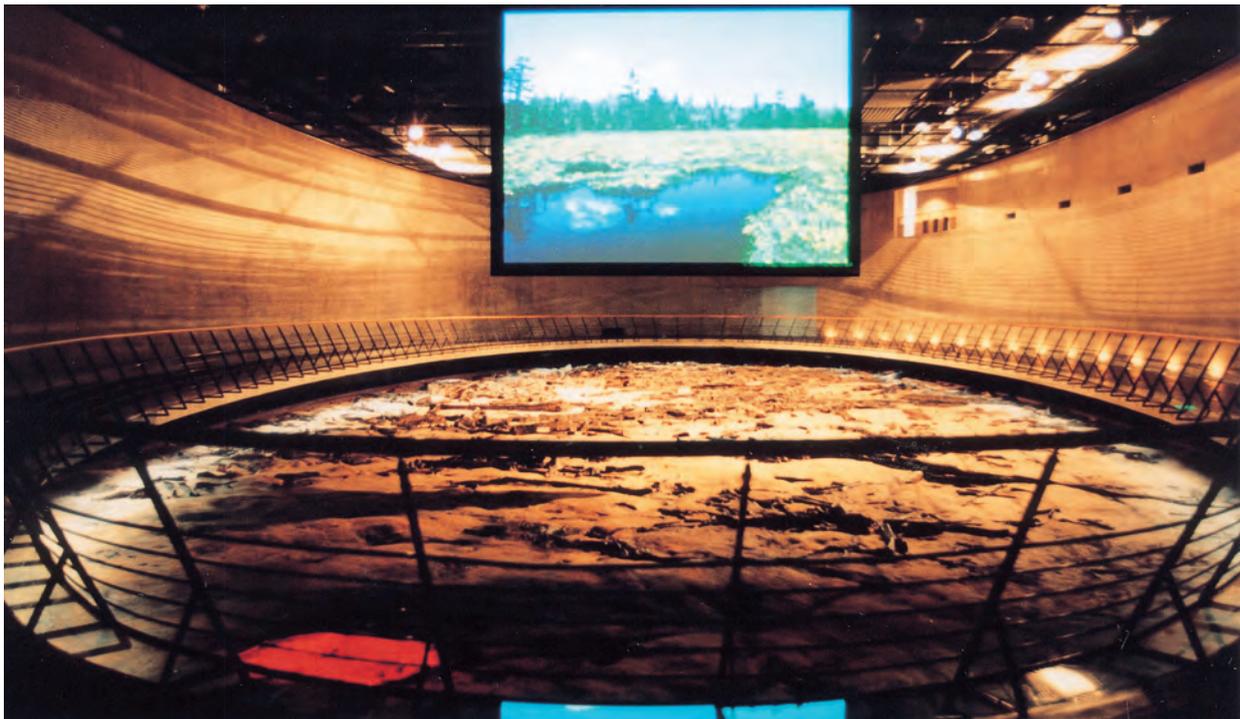


地底の森ミュージアム キャラクター
富沢博士



仙台市縄文の森広場 キャラクター
ハナちゃん

[地底の森ミュージアム]



地下展示室



外観



1階展示室

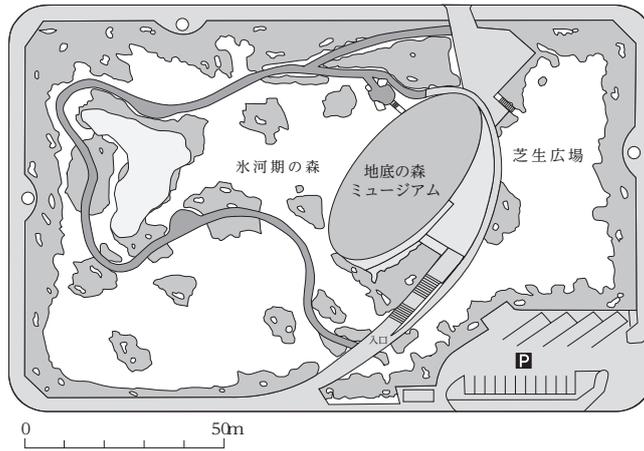


氷河期の森(春)

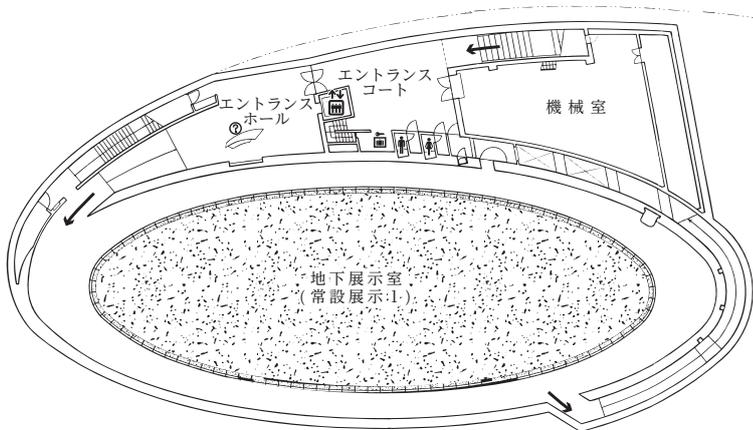
各室面積表

(㎡)

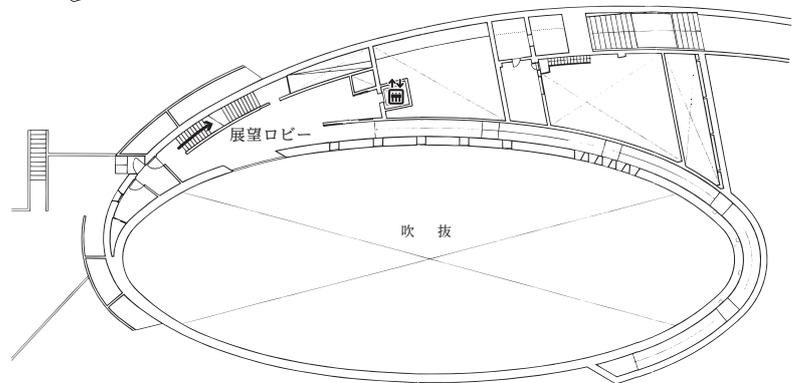
| | | |
|---------------|--|---|
| 地 下 | <ul style="list-style-type: none"> 地下展示室(常設展示1) エントランスホール エントランスコート(半野外) トイレ 倉庫 機械室 E Vシャフト その他 | 916 113 76 9 15 185 6 14 |
| 地 下 中 地 下 | <ul style="list-style-type: none"> スロープ 階段 | 124 31 |
| 中 地 下 | <ul style="list-style-type: none"> 展望ロビー E Vシャフト その他 | 74 6 59 |
| 1 階 | <ul style="list-style-type: none"> 1階展示室 企画展示室 展望ラウンジ 研修室 事務室・学芸室 収蔵庫 荷解室 自販機スペース ボランティア室 廊下 階段ホール トイレ エントランス 守衛室 機械室 E Vシャフト その他 | 311 87 170 78 99 58 17 6 7 28 81 45 7 6 40 6 18 |
| ピット階 (21㎡) | | 21 |
| 計 | | 2,743㎡ |



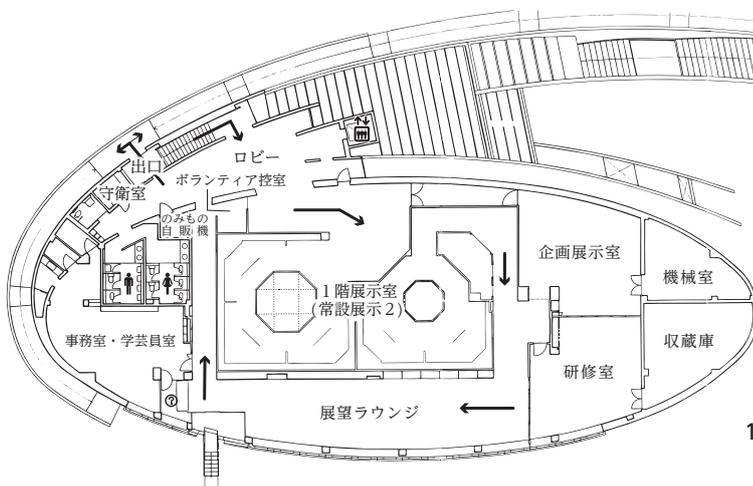
全体図



地下平面図



中地下平面図



1階平面図

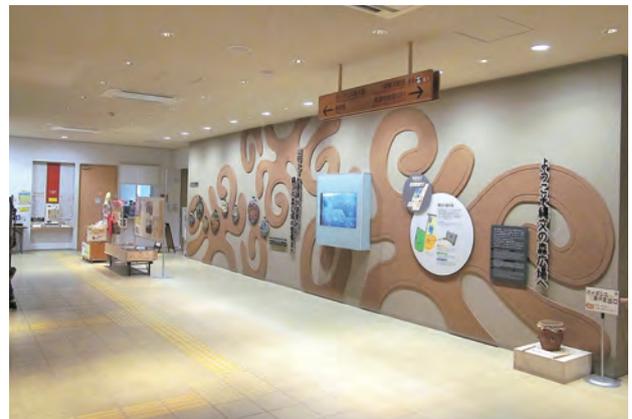
【仙台市縄文の森広場】



縄文ムラゾーンとガイダンス施設



展示室



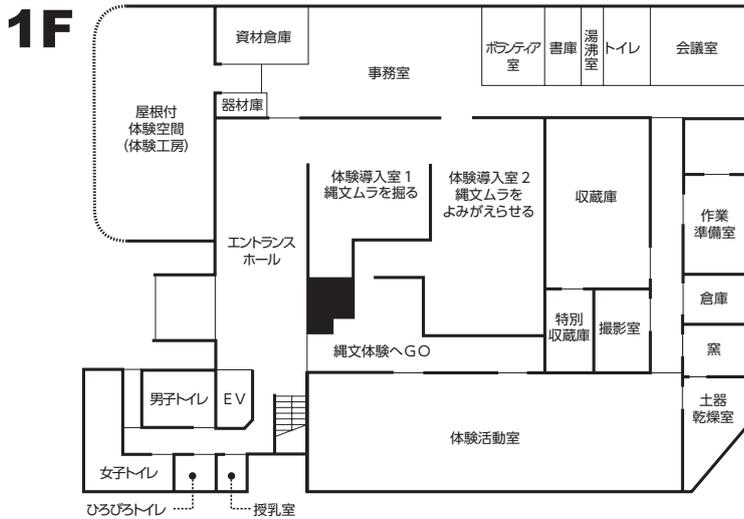
エントランスホール



体験活動室



展望休憩室



ガイダンス施設平面図

各室面積表

| | (㎡) |
|---------|--------|
| 体験導入室 | 207.93 |
| 体験活動室 | 160.58 |
| 屋根付体験空間 | 98.70 |
| 展望休憩室 | 69.90 |
| 収蔵庫 | 81.19 |
| ボランティア室 | 17.10 |
| 事務室 | 68.08 |
| 会議室 | 25.42 |

4. 整備の目的と基本方針

地底の森ミュージアム

| | |
|--------------------------|--|
| <p>設置の趣旨・目的</p> | <p>仙台市では富沢遺跡第30次調査の貴重な成果から調査対象地区を保存するとともに、積極的に公開・活用していくこととし、樹木やたき火跡を大地から切り離さずそのままの姿で保存処理をして展示・公開する「富沢遺跡保存館」と、発見された樹木などをもとに旧石器時代の植生を復元する「氷河期の森」を一体的に整備した。</p> <p>仙台市富沢遺跡保存館は、この保存された富沢遺跡の活用をとおして、主に旧石器時代の歴史や文化の理解を深めることをねらいとしている。</p> |
| <p>基本的性格・基本方針</p> | <p>①富沢遺跡保存館は、世界的にも貴重な富沢遺跡の歴史的価値を人類共通の遺産として保存しながら、積極的に公開・活用し、市民が誇れる施設とする。</p> <p>②富沢遺跡保存館は、旧石器時代を中心としたテーマミュージアムである。ここでは発掘された2万年前の樹木やたき火跡を現地で保存処理して公開するとともに、発見された遺物などとおして当時の環境と人類の活動を生き生きとよみがえらせ、それを世界的な視野の中に位置付ける活動を行っていく。</p> <p>③富沢遺跡保存館の野外展示である「氷河期の森」では、富沢遺跡の調査から判明した氷河期の植生を再現し、自然の悠久なる偉大さが臨場感豊かに伝わるよう展示するとともに、市街地の中のオアシスとして市民に憩いの場を提供する。</p> <p>④富沢遺跡保存館は、来訪者に富沢遺跡がもつ歴史的な魅力をダイナミックに伝えるとともに、学校教育活動との緊密な連携を図りながら、生涯学習の視点から市民の発展的な創造力の涵養を積極的に支援する施設とする。</p> |
| <p>収蔵資料</p> | <p>当館の建設された経緯から、富沢遺跡から出土した仙台市教育委員会が所蔵する資料のうち、常設展示に関する資料及び旧石器時代に関する資料を借用し保管している。特に、富沢遺跡出土の球果や葉などの植物化石、シカのフンは大型冷蔵庫に収納するなど、資料の日常的な管理作業を必要とする。</p> <p>【常設展示関係資料】</p> <p>①人工遺物</p> <ul style="list-style-type: none"> ○富沢遺跡第30次調査27層出土石器 111点 (K63～K167c) ○富沢遺跡第30次調査27層出土チップ 137点 ○富沢遺跡第30次調査25層など出土チップ 81点 ○富沢遺跡第8次調査出土縄文土器 1点 (A-1) ○富沢遺跡第30次調査出土石匙 1点 (K-30) ○富沢遺跡第30次調査出土弥生土器 1点 (B-5) ○富沢遺跡第30次調査出土石庖丁 1点 (K-25) ○富沢遺跡第30次調査出土須恵器坏 1点 (E-6) <p>②自然遺物</p> <ul style="list-style-type: none"> ○富沢遺跡第30次調査27層検出炭化物 1箱 (テンバコ32) <p>③模型・剥製</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人類頭骨模型 9点 ○シカ剥製(成獣, 幼獣) 3体 <p>④富沢遺跡発掘調査関連資料・写真資料・文献</p> |

【保管資料】

①富沢遺跡出土遺物

- 富沢遺跡第30次調査25～27層出土植物化石 2,091点
- 富沢遺跡第30次調査25層出土フン 21ブロック
- 富沢遺跡第58次調査21～41層出土植物化石 398点
- 富沢遺跡第63次調査21～25b層出土植物化石 52点
- 富沢遺跡第66次調査33～35層出土植物化石 25点
- 富沢遺跡第68次調査24・26層出土植物化石 20点
- 富沢遺跡第88次調査9～13層出土植物化石 2,663点
- 富沢遺跡第88次調査9～11層出土フン 42ブロック
- 富沢遺跡第90次調査25～27層出土植物化石 1,525点
- 富沢遺跡第90次調査25層出土フン 20ブロック

②近隣遺跡出土遺物（仙台市指定有形文化財）

- 春日社古墳出土革盾 1点
- 春日社古墳出土鉄矛 1点
- 春日社古墳出土鉄鏃 1束（15本）

③寄贈図書

- 博物館及び教育委員会 など

④購入図書

- 定期購読図書：月刊文化財発掘出土情報・月刊考古学ジャーナル・月刊文化財・考古学雑誌・旧石器考古学 など
- 一般図書：旧石器時代・考古学・人類学・植物学などの関連図書 など

⑤イラスト及び版画 制作：細野修一

- 特別企画展関係 54点
- その他常設展示関係など 4点

⑥その他

- 二階堂亮氏寄贈：石斧1点や文献・写真など計24点（平成9年4月17日受）
- 高橋政治氏寄贈：日本国内及びニュージーランドの土器約50点、石器約330点など計約400点（平成14年8月19日受）
- 二階堂亮氏寄贈秋保電鉄旗立駅関連図面写し計4点（平成21年5月28日受）

仙台市縄文の森広場

| | |
|--------------------------|--|
| <p>設置の趣旨・目的</p> | <p>遺跡の整備は、地域社会あるいは都市空間のなかで、具体的な活用の姿を示し、社会的・文化的役割を担うことを目的とし、縄文ムラの復元によって、都市の歴史的背景の一端を共有できる空間と、体験活動を通して人と自然との関わりを知ることにより、創造的な市民の意識がはぐくまれる空間を創り出す。</p> |
| <p>基本的性格・基本方針</p> | <p>【整備の基本方針】</p> <p>①遺跡の保存整備：遺跡の保存状態を良好に維持し、後世に伝える。</p> <p>②縄文ムラの復元整備：縄文時代中期末葉を復元対象の時期として東地区に竪穴住居を数棟作り、継続的な発掘調査の成果を活かしながら、西地区を含めてその変遷を追うように建て替えを行ってムラの変化を示す。また、環境復元は現状の植生を考慮して行う。</p> <p>③市民の憩いの場としての整備：縄文人の生活した場所であることが体感できる市民の憩いの場としての整備を行う。</p> <p>④体験活動の場としての整備：ガイダンス施設や体験活動を行う場を整備する。</p> <p>⑤発掘調査の場としての整備：山田上ノ台遺跡の未調査地区を主な対象とした計画的な発掘調査を継続して行い、その成果を基に整備を行う。</p> <p>【活動の基本方針】</p> <p>①体験活動：山田上ノ台遺跡の調査成果及び保存整備の意義を導入として、縄文人の生活と技術をテーマとする体験活動を展開する。体験活動は継続的な発掘調査と生活と技術の復元調査の成果をもとに充実していく。</p> <p>②発掘調査：体験活動を兼ねた発掘調査を行い、山田上ノ台遺跡の全体像を明らかにする。</p> <p>③情報の発信・受信・交流：体験活動の情報や縄文時代を中心とする発掘情報を広く市民に提供する。</p> <p>④講座・教室の開催：体験活動に関する内容を主とし、縄文時代の生活などを紹介する講座や新しい体験メニューを実践する教室を開催する。</p> <p>⑤学校・生涯学習施設との連携：学校との連携によって、小中学校などを対象とした体験学習を授業で積極的に行う。また、地底の森ミュージアムや市民センターなどの生涯学習施設と連携した活動を行う。</p> <p>⑥教職員対象講座の開催：小中学校の教職員を対象に、社会科、歴史、総合学習などの授業に関する支援と学習の場を提供する。</p> <p>⑦ボランティアの育成と支援：ボランティアの育成を行い、多様なボランティア活動を支援する。</p> <p>⑧地域住民との連携：山田地区の市民を対象に、山田上ノ台遺跡の重要性を理解し、活用してもらうためのさまざまな活動を行う。</p> <p>⑨資料収集・保管：調査・研究に関わる文献や資料の収集・整理と、遺跡出土遺物の保管を行う。</p> |
| <p>収蔵資料</p> | <p>当館は建設の経緯から、仙台市教育委員会が所蔵する山田上ノ台遺跡に関する常設展示資料、及びその他の出土資料を借用し、保管している。</p> <p>【常設展示関係資料】</p> <p>①人工遺物</p> <ul style="list-style-type: none"> ○山田上ノ台遺跡出土縄文時代の資料 土器40点・石器141点・土製品7点 ○山田上ノ台遺跡出土旧石器時代の資料 石器11点 <p>②山田上ノ台遺跡発掘調査関連資料・写真資料・文献</p> |

【保管資料】

①山田上ノ台遺跡出土遺物

- 山田上ノ台遺跡第1次調査 旧石器時代の資料(テンバコ32)3箱・登録縄文土器344点・円盤型土製品1059点・土器破片99点・石鏃270点・石匙62点・石錐79点・篋状石器38点・その他石器9467点・石核(テンバコ32)2箱・凹石393点・礫石器(テンバコ32)6箱・磨製石器688点・焼礫(テンバコ32)6箱・石皿14点・扁平石(テンバコ32)5箱・打製石斧5点・磨製石斧40点・石製円盤11点・砥石12点・石刀3点・石剣1点・石棒1点・块状耳飾1点・登録土師器63点・土師器破片(テンバコ32)2箱・登録須恵器13点・須恵器破片(テンバコ32)2箱・陶磁器72点・釘68点・鏡1点・金属製品16点・木製品2点・墓石1基・石碑1基・人骨(テンバコ32)5箱・未整理(テンバコ32)1箱・土壌サンプル(テンバコ32)1箱
- 山田上ノ台遺跡第2次調査 旧石器時代の資料(テンバコ16)1箱
- 山田上ノ台遺跡第3次調査 石器(テンバコ32)2箱・接合資料26点・礫石器(テンバコ32)6箱・縄文土器(テンバコ32)1箱・炭化物(テンバコ32)1箱・土壌サンプル(テンバコ32)12箱
- 山田上ノ台遺跡第4次調査 未整理遺物(テンバコ32)5箱

②縄文関連遺跡出土遺物

- 下ノ内浦遺跡 遺物40点・パネル2枚
- 伊古田遺跡 遺物47点・パネル1枚
- 上野遺跡 遺物13点
- 王ノ壇遺跡 遺物4点
- 下ノ内遺跡 遺物2点・パネル2枚
- 山口遺跡 遺物2点
- 六反田遺跡 遺物2点・パネル1枚
- 大野田遺跡 遺物20点 パネル2枚
- 北前遺跡・高柳遺跡・三神峯遺跡・鍛冶屋敷遺跡 各1点

③寄贈図書

- 博物館及び教育委員会 など

④購入図書

- 定期購読図書：月刊考古学ジャーナル・月刊文化財・博物館研究 など
- 一般図書：縄文時代・考古学・博物館学 など

[地底の森ミュージアム]

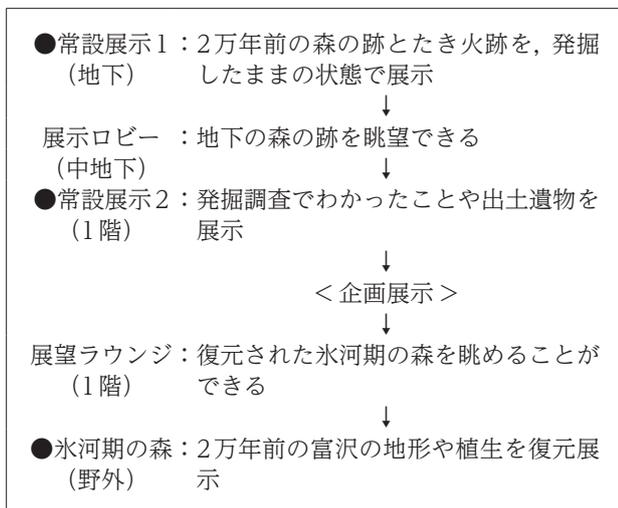
1. 平成30年度事業報告

(1) 展示事業

① 常設展示

i) 展示の構成

来館者は、最初に地下の「常設展示1」で、発掘された2万年前の森の跡と人類の生活跡を見学する。次に発掘調査の成果を「常設展示2」を通して理解し、さらに企画展を開催している場合はこれを見学する。そして、最後に保存館より外に出て、復元された旧石器時代の森の中を散策しながら楽しめるように構成されている。なお、館内の展示サインは日本語・英語・中国語・韓国語の4ヶ国語表記としている。



ii) 展示の方法とねらい

現地保存型の遺跡博物館施設としての特徴を生かし、常設展示1で最初に2万年前の遺跡そのものを見ることから始まる展示構成は、来館者におおむね好評である。団体の見学も多く、展示説明を希望される場合は、職員及びボランティアが館内の説明を行いながら一緒にまわっている。野外展示は、環境学習の場として活用が広がるとともに、鳥類や両生類、昆虫類が来訪および生息する地域の緑地として機能している。

○常設展示1 (地下展示室)

・展示：900㎡の楕円形の大きな空間に広がる「本物」の遺跡と、壁面に広く映し出される湿地林の風景や昇降式スクリーンでの復元映画の放映などによる演出により、富沢の環境と旧石器人の活動のようすを伝えている。

・保存公開：地下の展示室では、温湿度の設定値の調整、地下水位については排水ポンプの調整によって、保存・公開に適した状態を維持することに努めた。室内は湿度70%以上を保つようにしているが、外気の湿度の影響を受けることもあったため、平成10年に地下展示室への出入口4ヶ所に扉(自動扉2ヶ所を含む)を設置する工事を行い、湿度の安定を図った。保存処理及び管理については、(株)C&P 研究所に委託し、仙台市教育委員会と当館の三者で打合せを行いながら進めた。その際、東北大学工学研究科附属超臨界溶媒工学研究センターの猪股宏氏、東北芸術工科大学芸術学部文化財保存修復学科の米村祥央氏の指導・助言を得た。

○常設展示2 (1階展示室)

・展示：展示の構成は、順に a. 氷河期へのいざない、b. 富沢での人類の活動をテーマとする展示、c. 富沢の自然環境をテーマとする展示、d. 復元画と映像・ジオラマによる展示となっている。b・cでの「富沢博士」が謎解きをしながら調査でわかったことを説明していく展示方法や、全体をとおして映像や模型、グラフィックパネルなど、視覚的な面を重視した展示は、大人から子どもまで楽しめる内容となっていて、小・中学生の学習活動に利用されるなど、好感をもたれている。特に、映像とジオラマ模型を組み合わせた展示は子どもたちに人気が高い。

○野外展示

・植生：仙台周辺には自生していない植物が多いことから、仙台市教育委員会と当館が打合せを行いながら、植生の維持と管理に努めている。その際には東北大学名誉教授の鈴木三男氏、東北大学植物園の牧雅之氏・米倉浩司氏らから助言・指導をいただきながら進めている。また、植物の生態調査については、東北大学の委託研究として実施している。

② 企画展示

◎特別企画展

第85回特別企画展「米づくりはじめました」

○会期：7月20日(金)～9月24日(月・祝)

○開催日数：57日間

○入館者数：9,157人

○会場：企画展示室・研修室

○展示内容：東北地方を中心として、東日本でみつかった弥生時代から古墳時代の水田跡と稲作に関わる道具を紹介し、富沢遺跡で見つかった水田跡と関連資料と比較しながら展示を行った。

○広報：市政だより・ホームページ・各種広報誌などにより宣伝を行った。また、ポスター（600枚）・チラシ（8,000枚）を作成し、関係機関・各所に配布した他、交通機関（地下鉄南北線）のイベントボード掲示も行った。

○展示構成：出土資料および写真・文字パネルによる展示

○刊行物：A4版48ページの特別企画展展示図録を作成し、刊行した。

○協力機関：弘前市教育委員会 田舎館村教育委員会 田舎館村埋蔵文化財センター 山元町教育委員会 仙台市教育委員会 仙台市歴史民俗資料館 いわき市教育委員会（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団 群馬県教育委員会（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団（公財）横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター 平塚市教育委員会



ポスター

○関連行事

・記念講演会「米づくりでつなぐ アジア～日本～富沢」

日時：8月25日(土) 13:30～15:30

講師：田崎博之氏（愛媛大学先端研究・学術推進機構埋蔵文化財調査室 教授）

会場：仙台市太白区中央市民センター大会議室

参加者：41人



記念講演会

・ギャラリートーク

日時：8月18日(土) 14:00～15:00

講師：当館職員 参加者：23人



展示風景

・体験コーナー「お米粘土ワークショップ」

日時：7月29日(日) 13:00～15:00

参加者：40人

8月12日(日) 13:00～15:00

参加者：50人

8月26日(日) 13:00～15:00

参加者：29人

9月9日(日) 13:00～15:00

参加者：28人

会場：展望ラウンジ



体験コーナー

◎企画展

i) 第84回企画展「－仙台の遺跡めぐり－ 古墳時代のはじまったころ」

○会期：4月20日(金)～6月17日(日)

○開催日数：49日間

○入館者数：9,124人

○会場：企画展示室

○展示内容：古墳時代前期の仙台平野では、どのような土器をつかい、どのような暮らしを営んでいたのか、市内の

○関連行事

- ・ 関連講演会：「カオの心理学」※手話通訳対応
 日時：12月1日(土) 13:30～15:30
 講師：阿部恒之氏(東北大学大学院文学研究科教授)
 会場：研修室
 参加者：89人
- ・ ギャラリートーク
 日時：10月27日(土) 14:00～15:00
 講師：当館職員
 会場：企画展示室
 参加者：13人



関連講演会

iii) 第87回企画展

「もりの風景2018」・「ミュージアムフォトコンテスト～氷河期の森・縄文の森の風景2018～」作品展

○会期：1月16日(水)～3月10日(日)

○開催日数：45日間

○入館者数：3,933人

○会場：企画展示室・展望ラウンジ

○展示内容：平成30年度に実施した「親子でつくろう古代米」・「森を育てる2018」・「冬キラ★今日の主役は氷河期の森」などの事業紹介、野外展示で確認された生き物から分かる環境変化、ボランティア活動などを展示した。

また、同時開催として「ミュージアムフォトコンテスト～氷河期の森・縄文の森の風景2018～」作品展を実施し、両館野外展示の多面的な利用や魅力について紹介した。応募作品26点は、地底の森ミュージアム・仙台市縄文の森広場にて展示を行った。なお、館長賞以外の入賞作品は一般投票によって決定した。

○印刷物：ポスター(カラー) A3 100枚



ポスター

(2) 普及啓発事業

① 学校教育との連携

i) 利用状況

平成30年度の総入館者数における小・中学生の割合は25%であり、その多くは学校利用が占めている。仙台市内の学校の利用状況を見てみると、小学校は4～6月にかけての利用学習が多く、中学校は4～10月の校外学習(自主研修含む)が多い。

仙台市以外の学校については、県内の学校は自主研修のコースとして、県外の小・中学校は修学旅行や校外学習の目的地の一つとして、4～10月を中心に来館した。学年全体による団体での利用よりも、班別行動による自主研修活動の利用が多い。県外の利用学校の内訳は、ほとんどが東北だが、近年は北海道や東京から訪れる学校も増えている。

ii) 利用学習

仙台市内の小・中学校と連携して、当館と縄文の森広場において授業を実践する事業である。職員とボランティアが授業を行う形で実施している。平成30年度の当館利用は小学校5・6年生で、総数22校1,495人であった。地下展示室の遺跡見学と「石器づくり」、「石器を使う体験」、「氷河期の森探検」の3つの体験学習から選択する学習プログラムを実施した。

iii) 職場体験活動

市内中学校からの職場体験活動の受け入れ依頼により、平成30年度は12校46人の中学生を受け入れた。1回につき3～4日間3～6人程度を受け入れて実施した。体験内容は、体験イベントの補助、図書・アンケートの整理、野外展示の巡回などである。



職場体験活動

iv) 博物館学芸員課程実務実習

博物館学芸員課程実務実習では、県内の大学に通う学生や県外の大学に在籍する宮城県内出身の学生を中心とした希望者(最大定員12人)を受け入れている。平成30年度は11月27日(火)～12月1日(土)の期間に、尚絅学院大学1人、東北学院大学3人、宮城学院女子大学2人、東北生活文化大学2人、筑波大学1人、八洲学園大学1人、計10人を対象に実施した。



博物館学芸員課程実務実習

v) 教職員機関研修

仙台市教育センターと社会教育施設との連携研修として、学校教育との連携を推進するために、仙台市博物館・縄文の森広場と合同で機関研修を行う予定であったが、申し込みがなく実施しなかった。

② 各種普及活動

i) 体験学習

旧石器時代のテーマミュージアムとして、石器づくりを主とした旧石器時代の生活技術について、体験を通して学ぶ事業などを、学生サポーターの協力も得ながら実施した。また、水田遺構が多数発見されている富沢遺跡の特徴を紹介する体験教室「親子でつくろう古代米」など、指定管理業

務以外にも事業団の自主財源による事業を実施した。

○たのしい地底の森教室

体験イベント・企画展の展示解説・野外展示植物見学会・館長講座など、当館をより楽しんでいただく内容で教室を実施した。館長講座では、館外で地域の歴史を探るまち歩きも行った。

日時：日曜日(月2回程度)

13:30～14:30(まち歩きの際は15:00)

会場：地下展示室・研修室・企画展示室・展望ラウンジ・
野外展示「氷河期の森」他

対象：当日の入館者 参加者：計251人

事業例

・旧石器体験教室：石器製作と石蒸し料理などの体験学習

日時：5月26日(土) 10:00～12:30 参加者：7人

・手づくり工房★地底の森：ゴールデンウィーク期間や市内小・中学校の秋休み期間に合わせて実施。例年実施している「石器づくり」・「糸玉・ミサガづくり」などのコーナーを設けた他、今年度は「氷河期の森のカードづくり」・自主事業「ミュージアムフォトコンテスト」関連ワークショップ『「氷河期の森」撮影会』なども行った。また、仙台市立仙台工業高等学校模型部との連携企画「氷河期の森のこいのぼりをつくろう!」「親子でつくろう!氷河期の森の松ぼっくりツリー」のほか、秋休み期間には外部講師を招いての講座も実施した。

日時：GW 期間中 5月3日(木・祝)～5日(土)

10:30～12:00, 13:00～15:00

秋休み期間中 10月7日(日), 9日(火)

10:30～12:00, 13:00～15:00

会場：研修室・展望ラウンジ・地下展示室・野外展示「氷河期の森」他

対象：当日の入館者 参加者：計702人



手づくり工房★地底の森

○地底の森フェスタ2018

当館とボランティア会が共催するイベントである。「石器づくり」・「やり投げ」・「火おこし」・「石器を使ってみよう」・「編布服試着・小物づくり」・「地底の森ガイドツアー」と、縄文の森広場の出張コーナー「火おこし」の7つの体験コーナー、石蒸し料理・地底の森スープ・古代米おにぎりの「地底の森料理」試食コーナーを設けて実施した。また、各コーナーの周遊を促進するためにスタンプラリーも実施した。

日時：10月8日(月・祝) 10:00～15:00

会場：芝生広場・地下展示室他

参加者：計1,590人



やり投げ



田植え



収穫祭

○体験コーナー「石器をつかってみよう」

日時：日曜・祝日の13:00～15:00

対象：当日の入館者

内容：石器で紙を切って、その切れ味を体験してもらった。

○体験教室「親子でつくろう古代米」

事業団の自主事業。古代米(紫黒米)の栽培・収穫をとおり、農業の歴史を実体験として感じてもらうことを目的とした。さらに館隣接地での栽培により、地域住民などとの交流を図ることで、当館が市民協働・連携など、地域活性化の拠点となることを目標とした。

5月12日(土)

オリエンテーション・田植え 参加者：50人

6月9日(土) 弥生土器づくり 参加者：46人

7月28日(土)

石庖丁づくり・かかしづくり 参加者：41人

9月23日(日) 稲刈り 参加者：38人

11月3日(土・祝) 収穫祭 参加者：45人

○古代米の稲わらで正月飾りづくり

体験教室で栽培した稲わらと「氷河期の森」の植物を利用して、正月飾りづくりを体験する事業を行い、古代米づくりの活動の紹介や古代米の販売を促進した。

日時：12月22日(土)

11:00～14:00(30分毎に4回実施)

会場：展望ラウンジ 対象：当日の入館者

参加者：計42人



古代米の稲わらで正月飾りづくり

地底の森ミュージアム

○ミュージアムフォトコンテスト～氷河期の森・縄文の森の風景2018～

事業団の自主事業。都市化が進む太白区长町～山田地区において、より多くの市民に両館の野外展示について知って頂くことを目的に、過去の景観を復元している「氷河期の森」と「縄文の森」の植物や動物などを含む風景を撮影した写真を募集するフォトコンテストを開催した。

作品募集：5月2日(水)～12月16日(日)

応募者：26人

作品展示：1月16日(水)～3月10日(日)

(投票：1月16日～2月11日)

表彰式：3月3日(日) 11:00～12:00

参加者：20人



表彰式

○冬キラ☆今日の主役は氷河期の森「たからさがしの森」

事業団の自主事業として、地域の方々が気楽に参加しやすい形で、野外展示「氷河期の森」の魅力に触れ、楽しみ、その価値を理解し、保全への共感を得ることを目的として実施した。宮城県美術館(細谷美宇氏)と長町商店街のPUBLIC.COFFEE & BARに協力を求め、実施した。

日時：12月8日(土)・9日(日) 15:00～19:00

(ライトアップは17:00～)

- ・三原色の森(野外展示のライトアップと影絵)

会場：展望ラウンジ・氷河期の森

参加者：80人(8日)・76人(9日)

- ・たからさがしの森(ワークショップ)

会場：研修室・氷河期の森

参加者：87人(8日)・102人(9日)

- ・冬キラ☆カフェ

会場：展望ラウンジ

参加者：135人(8日)・170人(9日)



三原色の森



たからさがしの森

○森を育てる2018

野外展示「氷河期の森」の維持管理に関わる業務の一部を、参加者と連携しながら行い、自然環境を守る意欲を育てる事業として実施した。本事業は自主事業として平成27年度に開始し、平成30年度からは一部を指定管理事業に移行した。

「ザリガニ駆除」

日時：7月21日(土) 10:00～12:00

参加者：23人

「ザリガニはどんな生きもの?～つかまえて・しらべる～」(秋休み手づくり工房として実施)

講師：棟方 有宗氏(宮城教育大学 准教授)



森を育てる2018

日時：10月7日(日) 10:30～12:00

参加者：59人

「年輪のひみつ～かぞえて・しらべる～」(秋休み手づくり工房として実施)

講師：大山 幹成氏(東北大学植物園 助教)

日時：10月9日(火) 10:30～12:00

参加者：27人

○ミュージアム・シアター「狩人登場！」

事業団の自主事業。劇団「短距離男道ミサイル」の団員が、旧石器時代の狩人に扮して館内外に登場した。ミュージアム・シアターは演劇の手法を通し、当館の展示をより理解してもらう目的で実施した。

開催期間：4月～3月

登場回数：40回(このほか打合せ2回)



狩人登場！

○施設広報開発「探検☆氷河期の森」

事業団の自主事業。参加者が見つけた当館の魅力を動画撮影してもらい、その動画を館プロモーション映像として、当館が管理するYouTube・ホームページで公開した。参加者の6作品とともに、職員が撮影した狩人登場動画4本もあわせて公開している。

日時：8月18日(土) 10:00～12:00

会場：野外展示・展望ラウンジ

参加者：10人



探検☆氷河期の森

○きみも富沢博士！～“かせき”ってなあに？～

SMMA(仙台・宮城ミュージアムアライアンス)のクロスイベントとして、当館・東北大学総合学術博物館・みちのく博物楽団と協働で実施した。収蔵資料(標本)の解説と触る体験を通して、化石に興味関心を持ってもらうためのイベントとして実施した。

日時：2月23日(土)・24日(日) 13:00～15:00

会場：研修室・展示室

参加者：(23日)3組6名・(24日)8組18名



きみも富沢博士！

ii) 各種講座

○考古学講座

生涯学習事業の一環として、一般を対象に、最新の考古学の研究効果を取り上げる講座を2回実施した。

第1回 11月24日(土) 13:30～15:00

演題：「赤井遺跡と矢本横穴墓群－古代陸奥国の大豪族道嶋氏と牡鹿郡－」

講師：佐藤 敏幸氏(東松島市生涯学習課文化財班 班長) 会場：研修室 参加者：63人



第1回考古学講座

第2回 1月26日(土) 13:30～15:00

演題：「東北地方の古代社会－境界の創出と境界を越える交流」

講師：藤澤 敦氏(東北大学総合学術博物館 教授) 会場：研修室 参加者：75人



第2回考古学講座

○富沢ゼミ

富沢遺跡と近隣に所在する遺跡を中心に、地域の歴史や文化財を紹介する講座を実施した。

第1回 12月14日(金) 15:00～16:30

演題：「よみがえる2万年前の世界－富沢遺跡第30次調査の成果」

講師：斎野裕彦氏(仙台市教育委員会文化財課) 会場：研修室 参加者：40人

第2回 2月8日(金) 15:00～16:30

演題：「地底の森ミュージアム周辺の発掘調査とその

成果」

講師：斎野裕彦氏(仙台市教育委員会文化財課)

会場：研修室 参加者：50人



富沢ゼミ

iii) 市民文化財研究員

応募者1人を対象に、遺跡や考古学に関する学習支援を実施した。学芸員による講義や各種体験、遺跡見学会を行ったほか、自身が設定したテーマをもとにレポートを作成し、その成果は当館ホームページにて公開している。

iv) ボランティア活動

ボランティア登録者は、昨年度からの継続者61人に、新規9人を加えて70人であった。活動内容は、来館者への展示解説や各種体験活動における補助、講座の会場準備などとなっている。1年間の解説活動の延べ実績は849人、2158時間、イベント活動の延べ実績は470人、1504時間であった。

また、スキルアップを目的として、ボランティア養成講座、実技研修、見学会を実施した。

養成講座「入の沢遺跡について」

日時：6月3日(日) 13:30～15:00

講師：村上 裕次氏(宮城県多賀城跡調査研究所)

会場：研修室 参加者：34人

実技研修「土器づくり研修」

日時：2月16日(土) 11:00～15:00



実技研修

講師：菊地 逸夫氏（縄文工房）

会場：研修室 参加者：18人

見学会「岩手県奥州市（奥州市埋蔵文化財調査センター、国史跡 胆沢城跡、北上市立博物館、樺山遺跡縄文館）」

期日：11月18日（日）

8:00～17:00（縄文の森広場と合同で実施）

参加者：両館ボランティア合計32人



見学会（奥州市埋蔵文化財調査センター）

v) 運営懇談会

当館に隣接する町内会・小中学校・市民センターなどの方々に館事業を紹介し、運営のあり方について意見交換するための懇談会を実施した。第1回は近隣小中学校を主対象とし、第2回は東北大学大学院文学研究科の阿子島香教授・鹿又喜隆准教授より今後の館運営のあり方に助言を求める形で実施した。これらの成果は、今後の館運営及び事業に活かしていく。

第1回運営懇談会

日時：8月22日（水） 15:30～16:45

会場：事務室ほか 出席者：9人

第2回運営懇談会

日時：3月28日（木） 10:00～11:30

会場：研修室 出席者：10人

vi) ララガーデン夏休みイベント

ララガーデン長町で毎年行われている夏休みイベントに、仙台市立仙台工業高等学校模型部との連携企画として「親子でつくろう！氷河期の森の松ぼっくりツリー」を出店した。

日時：8月1日（水） 13:00～15:00

会場：ララガーデン長町3階キッズガーデン

対象：小学生までの親子 参加者：63名

vii) 長町まちかど教室

本教室は、近隣の長町商店街が主催している事業で、商店街の店主やスタッフが講師となり、専門店のプロならで

はの「ワザ」「コツ」「まめ知識」を無料で紹介する企画である。

「天井から遺跡を見てみよう」

日時：6月2日（土） 17:00～18:00

会場：地下展示室 参加者：7名

「木の実博士になろう！」

日時：10月28日（日） 10:00～11:30

会場：野外展示 参加者：5名



木の実博士になろう！

viii) 国際交流

東アジア考古学研究所（大韓民国）より招聘を受け、大韓民国京畿道漣川郡全谷里で5月3日～7日に行われた「第26回漣川旧石器祭（教育博覧会・国際ワークショップ）」に縄文の森広場職員と共に参加した。

(3) 調査・研究事業

① 遺跡に関する各種分析調査と遺跡保存

保存公開している遺跡の現状を把握し、問題への対処などを検討するために、12月と2月に保存処理検討会を開催した。検討会には、猪股宏氏（東北大学工学研究科附属超臨界溶媒工学研究センター）、米村祥央氏（東北芸術工科大学芸術学部文化財保存修復学科）を招き、遺跡の現状と今後の方向性に関して指導を受けた。併せて、保存公開している遺跡の現状を定量的に把握することを目的として、遺構面の温湿度測定と分析調査を実施した。

② 研究報告の刊行

富沢遺跡保存館の調査研究活動の成果を発表し、これからの博物館運営に役立てることを目的として、『地底の森ミュージアム・縄文の森広場研究報告2018』を刊行した。「仙台市富沢遺跡保存館の藻類処理実験について」と題し、保存・公開している遺跡面に発生した藻類の処理実験の概要とその経過を報告したほか、縄文の森広場職員2名の調査研究成果を掲載した。

2. 施設管理

(1) 定例保守

建物・設備の保守点検を毎月1回、通年で実施した。

(2) 建物・設備などの修繕

1階展示室の映像機器等の交換を行い、レーザーディスクプレイヤーをデジタルメディアプレイヤーに移行した。また12月には、2台ある空調機のチラーのうち1台が動作できない状態となり、1台のみで温湿度の維持管理を行う不安定な状態となっている。

3. 利用状況

平成30年度の開館日数は294日、その間の入館者数は38,729人で、9月22日には入館者90万人達成記念式を開催した。前年度入館者数(40,698人)と比べ1,969人の減となった。具体的には、夏休み期間中や秋期から冬期にかけての入館者数が前年度比80%程度となっている。

韓国の東アジア考古学研究所からは3年連続となる、全谷里遺跡を舞台に行われる旧石器祭へ当館学芸員が招聘され、さらに9月には全谷先史博物館長 イ・ハニョン氏と学芸員2名が当館の視察に来館した。そのほか第43回全国遺跡環境整備会議「遺構の露出展示」及び埋没林シンポジウムにおいて、事例発表の依頼を受けるなど、当館活動について外部から高い関心と評価を得ることができた。

近隣商店街主催の「長町まちかど教室」参加、商業施設ララガーデン長町の夏休み企画における仙台市立仙台工業高等学校模型部とのワークショップ協働、近隣町内会での講話など、地域に根差し、活性化に貢献する館外活動と情

報発信を積極的に行った。

また新たな取り組みとして、宮城県仙台三桜高等学校2年生が、近隣地域をテーマにした「探求学習」のために4回来館し、当館について調べ学習を行った。そのほか、仙台の昔を伝える紙芝居作り・上演実行委員会(いきいき青葉区推進協議会)が、平成29年度に作成した紙芝居「冒険しんちゃん地底のたび」の上演も行った。自主事業では動画撮影ワークショップを開催し、参加者に当館の魅力を発信する動画を撮影してもらい、作品公開を行った。

平成30年度入館者の内訳を見ると、入館者全体に占める有料入館者の割合は45.3%で、その7割以上が一般、次



90万人達成記念式

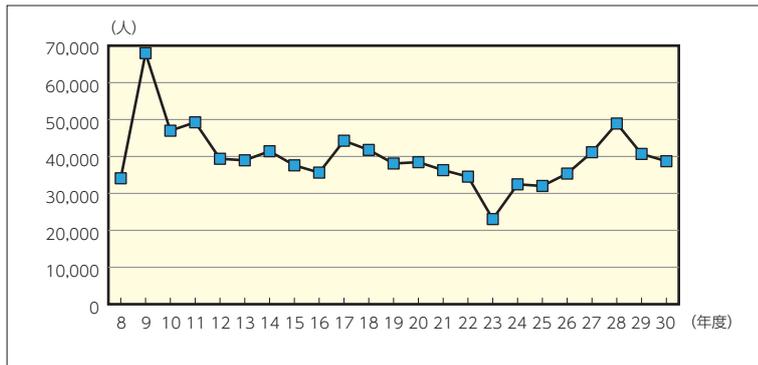


紙芝居「冒険しんちゃん地底のたび」上演

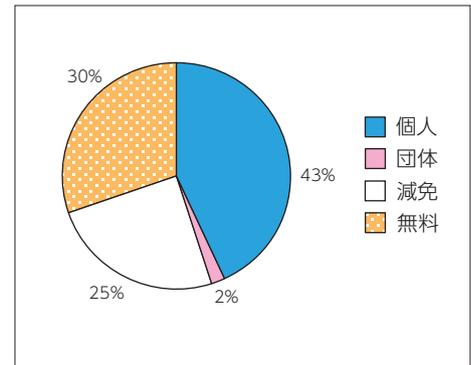
入館状況

| 月 | 有 料 | | | | | | | 無 料 | | | | | 合計 |
|----|--------|-----|-------|-----|-----|-------|--------|-------|-------|-------|--------------|--------|--------|
| | 個 人 | | | 団 体 | | | | 減 免 | | | 無 料 入 館 者 | 小 計 | |
| | 一般 | 高校生 | 小・中学生 | 一般 | 高校生 | 小・中学生 | 一般 | 高校生 | 小・中学生 | | | | |
| 4 | 1,098 | 22 | 256 | 3 | 0 | 207 | 1,586 | 219 | 0 | 744 | 501 | 1,464 | 3,050 |
| 5 | 1,813 | 45 | 716 | 85 | 0 | 258 | 2,917 | 359 | 37 | 1,207 | 868 | 2,471 | 5,388 |
| 6 | 1,262 | 7 | 711 | 57 | 0 | 112 | 2,149 | 178 | 0 | 769 | 529 | 1,476 | 3,625 |
| 7 | 1,241 | 12 | 112 | 0 | 0 | 0 | 1,365 | 268 | 28 | 281 | 1,386 | 1,963 | 3,328 |
| 8 | 2,277 | 72 | 406 | 6 | 0 | 0 | 2,761 | 390 | 0 | 631 | 747 | 1,768 | 4,529 |
| 9 | 1,255 | 11 | 178 | 2 | 0 | 28 | 1,474 | 220 | 28 | 601 | 1,080 | 1,929 | 3,403 |
| 10 | 983 | 10 | 128 | 5 | 0 | 51 | 1,177 | 434 | 29 | 446 | 2,275 | 3,184 | 4,361 |
| 11 | 819 | 9 | 7 | 36 | 0 | 0 | 871 | 258 | 34 | 625 | 830 | 1,747 | 2,618 |
| 12 | 699 | 14 | 21 | 0 | 0 | 0 | 734 | 197 | 0 | 317 | 1,219 | 1,733 | 2,467 |
| 1 | 576 | 7 | 21 | 0 | 0 | 0 | 604 | 163 | 0 | 120 | 457 | 740 | 1,344 |
| 2 | 744 | 25 | 17 | 0 | 0 | 0 | 786 | 143 | 0 | 234 | 1,132 | 1,509 | 2,295 |
| 3 | 1,007 | 25 | 74 | 0 | 0 | 0 | 1,106 | 285 | 0 | 282 | 648 | 1,215 | 2,321 |
| 計 | 13,774 | 259 | 2,647 | 194 | 0 | 656 | 17,530 | 3,114 | 156 | 6,257 | 11,672 | 21,199 | 38,729 |

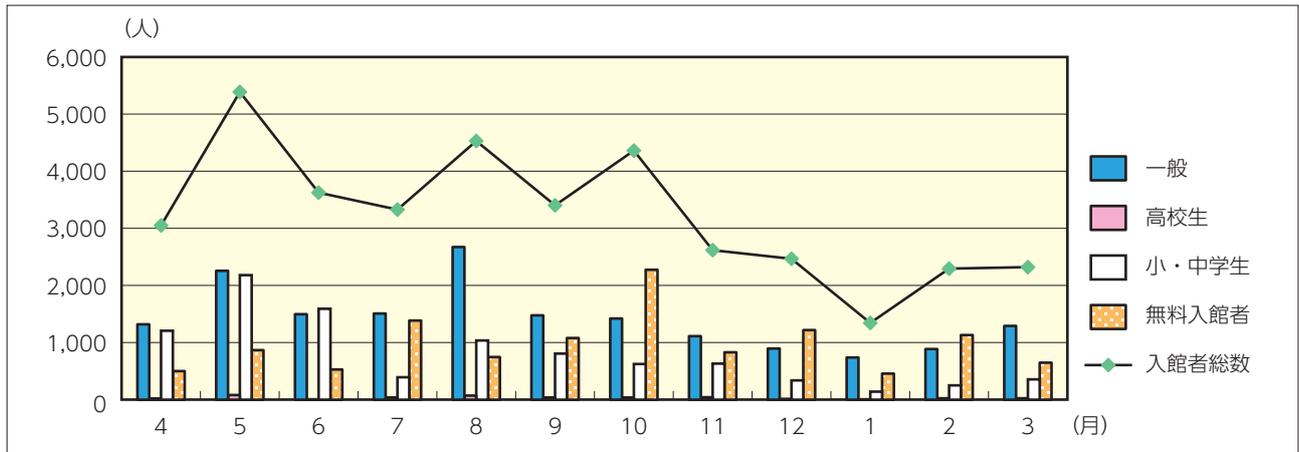
開館年度からの入館者数の推移



入館者内訳



月別入館者数



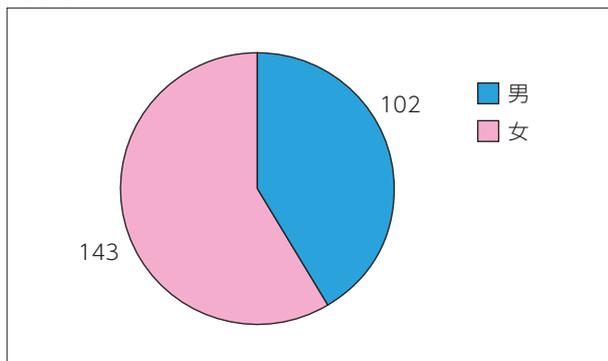
いで小・中学生となっており、これは例年の傾向と変わりがなかった。なお、平成8年11月2日の開館から平成31年3月31日までの総入場者数は917,334人である。

提案については、その要望や意見への回答と改善について検討を行い、『お客様の声へのお答え』として展覧ラウンジに設置した掲示板にお知らせしている。同時に要望や改善について、可能なものは迅速に対応するよう努めている。平成30年度においても、当館のより望ましい運営のあり方を探るためにアンケート調査を実施し、250人の方から回答をいただいた。今後も継続してアンケート調査を行い、ご要望やご意見を当館の運営に反映させていきたいと考えている。

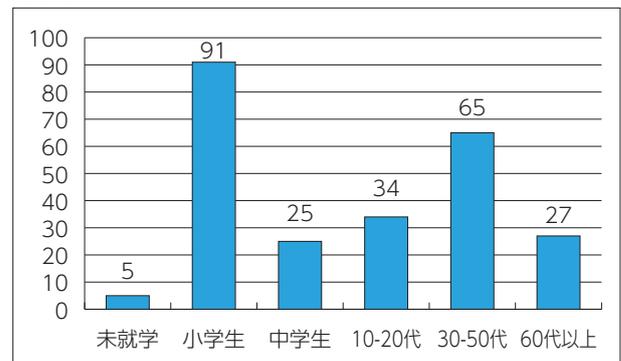
4. 入館者アンケート

例年、特別企画展の時期に集中的に実施してきたアンケートを、平成24年度からは常時所定の場所に設置し、毎日回収している。入館者からいただいた貴重なご意見・ご

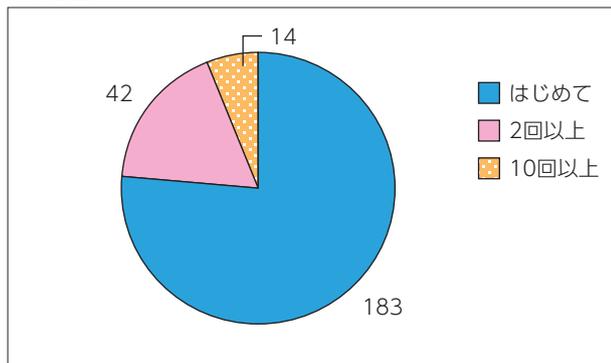
男女比



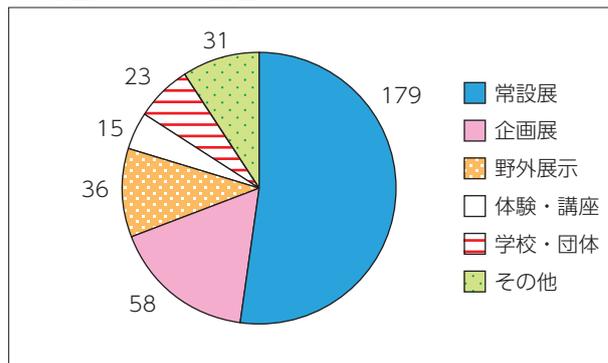
年代



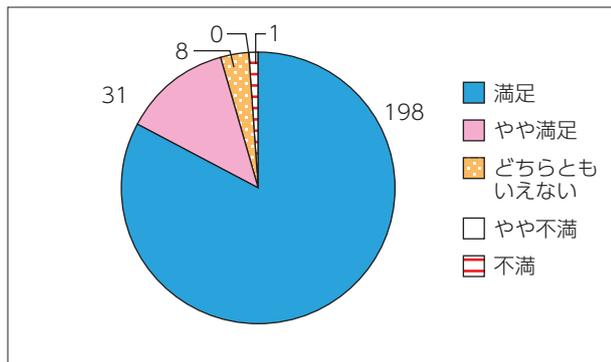
来館回数



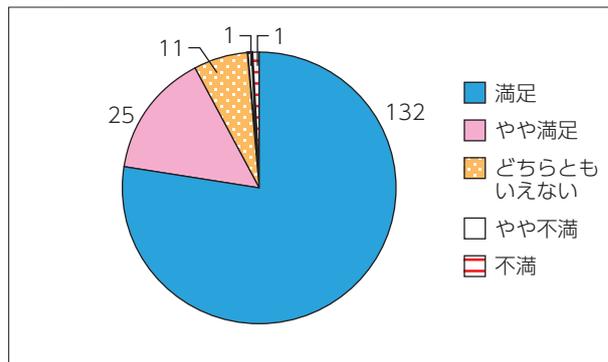
来館目的 (複数回答)



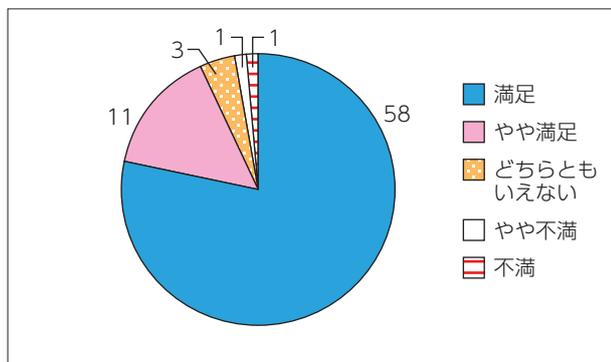
常設展見学の満足度



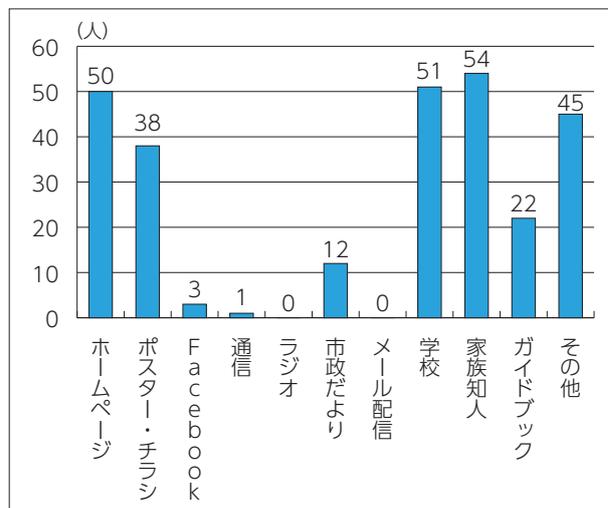
企画展見学の満足度



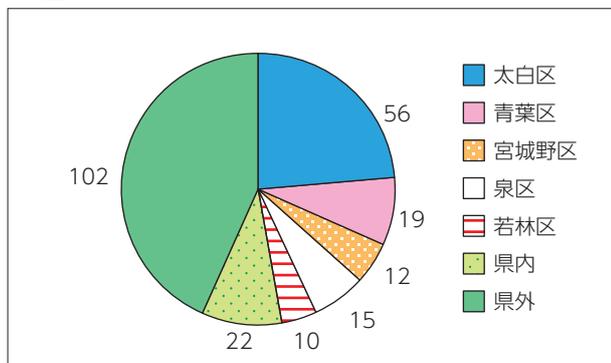
体験の満足度



何で知ったか (複数回答)



お住まい



5. 平成31年度・令和元年度事業計画

(1) 展示事業

①常設展示

i) 常設展示1(地下展示室)

富沢遺跡の発掘調査面の展示

ii) 常設展示2(1階展示室)

出土資料をもとに調査成果を分かり易く解説した展示

iii) 野外展示

2万年前の植生を復元した「氷河期の森」

②企画展示

◎特別企画展

「センダイ 遺跡の記憶」

会期：7月19日(金)～9月23日(月・祝)

内容：仙台市内に所在する重要文化財や、市内の遺跡から出土した指定文化財を紹介する。展示の中心は縄文時代から古墳時代にかけての遺跡から出土し、県や市から指定を受けた文化財。東北各地の資料とともに展示し、指定文化財を通してみた仙台の特徴を探る。

○関連行事

・記念講演会「文化財が語る地域の魅力」

日時：8月24日(土) 13:30～15:30

講師：近江 俊秀氏(文化庁 主任文化財調査官)

会場：太白区中央市民センター 3階大会議室

・ギャラリートーク

日時：7月28日(日)・8月18日(日) 13:30～14:30

講師：当館職員

・関連イベント「つくってみよう きみだけの宝もの」

日時：8月4日(日)・8月17日(土)・9月15日(日)

13:00～15:00

講師：当館職員

会場：展望ラウンジ

◎企画展

i) 第88回企画展

「仙台の遺跡めぐり 古代びとの道具箱」

会期：4月19日(金)～6月16日(日)

内容：古墳時代末から奈良時代前半に陸奥国の中心として機能していた郡山遺跡。周辺遺跡を含めた出土資料を中心に、役人と庶民の道具を比較しながら展示する。また、近年発掘調査され話題になっている赤井遺跡(東松島市)や原遺跡(岩沼市)も紹介する。

○関連行事

・関連講座「道具からみる古代の仙台—郡山官衙とその周辺に暮らす人々—」

日時：5月25日(土) 13:30～15:00

講師：及川謙作氏(仙台市教育委員会文化財課)

会場：研修室

・ギャラリートーク

日時：4月21日(日) 14:00～15:00

講師：当館職員

ii) 第90回企画展「土器の“ヒミツ”」

会期：10月25日(金)～12月15日(日)

内容：仙台市内の遺跡から出土している縄文土器・弥生土器を主に展示する。土器を観察することで明らかにされた人々の暮らしを紹介する。

○関連行事

・関連講座「土器にのこされた痕跡からみえるもの」

日時：11月16日(土) 13:30～15:00

講師：五十嵐愛氏(仙台市教育委員会文化財課)

会場：研修室

・ギャラリートーク

日時：11月4日(月・祝) 13:30～14:30

講師：当館職員

・関連イベント「土器のヒミツを調べてみよう」

日時：11月24日(日) 13:00～15:00

講師：当館職員

iii) 第91回企画展「もりの風景2019」

会期：1月15日(水)～3月15日(日)

内容：地底の森ミュージアムの一年間の展示や体験教室などの活動とボランティア会の活動などを紹介する。

(2) 普及啓発事業

①学校教育との連携

i) 利用学習(縄文の森広場と合同で実施)

仙台市内の小学校5・6年生及び中学校1年生を主対象とし、4月から12月までの期間に当館の常設展示の見学・体験学習と縄文の森広場の各種縄文体験による学習を行う。

ii) 職場体験活動

市内中学校からの要請に応じて、仙台市が「自分づくり教育」として推進している職場体験活動を受け入れる。

iii) 博物館学芸員課程実務実習

学芸員資格取得を目指す大学生(定員12人)を受け入れ、実習を行う。

期日：11月26日(火)～11月30日(土)

iv) 教職員利用研修

市内小・中学校の教職員を対象として、当館の展示と学習活動を紹介し、学校教育との連携のあり方を検討する。

日時：8月2日(金) 13:30～15:30

②考古学講座

先史時代に関する考古学・環境などのテーマを設定し、専門家による講座を2回実施する(縄文の森広場との連携事業)。

第1回考古学講座「作って調べる 縄文布の世界(仮)」

講師：未定

日時：11月23日(土) 13:30～15:00

会場：研修室

第2回考古学講座

「空から調べる 地形と遺跡の関係(仮)」

講師：未定

日時：1月25日(土) 13:30～15:30

会場：研修室

③富沢ゼミ

富沢遺跡から明らかになった富沢地区の多様な歴史の一端を紹介する講座。講師には、聴講者からの質問に随時答えていただく形で実施する。

第1回「富沢さんぽ ー泉崎あたり(仮)」

講師：仙台市教育委員会文化財課職員

日時：12月13日(金) 15:00～16:30

会場：研修室

第2回「富沢さんぽ ー中近世の富沢あたり(仮)」

講師：仙台市教育委員会文化財課職員

日時：2月7日(金) 15:00～16:30

会場：研修室

④たのしい地底の森教室

富沢遺跡に関連するテーマを担当職員が設定し、体験型活動を実施する。多世代の来館者が楽しめる内容となるよう工夫して行う。特に、春のゴールデンウィーク期間、秋休み期間には主に小中学生を対象とした、石器づくり・編布アクセサリづくり・「氷河期の森」の植物を利用したオリジナルグッズづくりなどのメニューを日替わりで実施する。

期日：毎月2回程度(5月3日(金)～5日(日) 10:30～12:00 / 13:00～15:00, 10月13日(日)・15日(火)・16日(水) 13:00～15:00)

⑤地底の森フェスタ2019

一般市民を対象として館西側の芝生広場を会場に「やり投げ」・「石器づくり」・「編布服試着・小物づくり」などの体験活動や、石蒸し料理・複製土器で煮込んだ地底の森スープ・古代米おにぎりなどの試食を行う(縄文の森広場との連携事業)。

日時：10月14日(月・祝) 10:00～15:00

⑥体験コーナー「石器をつかってみよう」

学芸員やボランティアが製作した石器を使用し、型紙を切る体験を実施する。

期日：日曜日・祝日(館事業により休止する場合もある)

⑦市民文化財研究員の育成

公募した市民(定員10人)が、1年間にわたり週1回当館にて考古学や遺跡に関する学習活動を行う。館職員は、講義や遺跡見学会などの支援を行う。研究員は、それぞれのテーマに基づき自主学習を行い、その成果を活動報告にまとめる。

⑧ボランティア育成

市民文化財研究員を修了した希望者及び一般市民から募集し、展示解説や館行事の準備や補助を行うための研修事業である。さらにすでにボランティア登録している現ボランティアのスキルアップ研修も実施する(縄文の森広場との連携事業)。

i) 新規ボランティア養成講座

オリエンテーション：4月6日(土)

第1回：4月13日(土)

第2回：4月27日(土)

第3回：5月11日(土)

第4回：5月18日(土)

第5回：6月15日(土)

第6回：7月7日(日)

ii) ボランティア養成講座

第1回「宮城県内の発掘最新情報(仮)」

講師：仙台市教育委員会文化財課職員

日時：12月8日(日) 13:30～15:00

第2回「旧石器時代の人類(仮)」

講師：仙台市教育委員会文化財課職員

日時：2月2日(日) 13:30～15:00

iii) ボランティア遺跡見学会(縄文の森広場と合同で実施)

日時：11月17日(日) 8:30～17:00

iv) ボランティア実技研修「土器焼きおよび石蒸し料理」

日時：6月2日(日) 10:00～14:00

⑨地域や大学との連携

地域の行事には積極的に参加・協働し、周辺の学校や社会教育施設、並びに地域住民とともに地域文化の中核としての博物館をめざす。また市内大学と連携し、学生サポーターとの協働も進めていく。

- i) 太白区民まつりへの参画 11月4日(月・祝)
- ii) 地域運営懇談会の開催 年2回(8月, 2月)
- iii) 体験学習事業での学生ボランティアとの協働

⑩インターネットおよび SNS による情報発信

企画展や体験活動などの情報を広く一般の方々に提供するため、ホームページを開設し、常時更新しながら情報発信する。またフェイスブックでの情報公開も行う。

⑪事業団の自主事業

i) 親子でつくろう古代米

近隣小学校3年生以上とその保護者20組を募集し、古代米の栽培・収穫を通して農業の歴史を実体験してもらう事業として全5回の体験教室を実施する。関連イベントとして、12月21日(土)、入館者を対象に「古代米の稲わらで正月飾りづくり」を実施する。

- 第1回 5月11日(土): オリエンテーション・田植え
- 第2回 6月8日(土): 土器づくり
- 第3回 7月27日(土): 石庖丁・かかしづくり
- 第4回 9月21日(土): 稲刈り
- 第5回 11月3日(日・祝): 収穫祭

ii) ミュージアム・シアター「狩人登場！」

市内を中心に演劇などの表現で活動している劇団「短距離男道ミサイル」の団員が旧石器時代の狩人に扮し、館内外にて狩人出現とパフォーマンスを行う。

開催期間: 7月~3月 25回程度

iii) 冬キラ☆今日の主役は氷河期の森

地域のイベントとしての定着と、地域の方々が参加しやすい形で、野外展示「氷河期の森」の価値を高めることを目的として実施する。

日時: 12月7日(土)・8日(日) 両日 15:00 ~ 19:00

iv) 施設広報開発事業

野外展示「氷河期の森」の風景を中心に、市民に撮影・提供してもらった画像や動画を、当館のホームページやYouTubeにて公開する。

(3) 調査・研究事業

①調査研究報告書の刊行

館職員・ボランティアなどによる考古学や当館事業に関する調査研究活動及び研修活動の成果をまとめ、縄文の森

広場と合同で「調査研究報告書」として刊行する。

②遺構の各種分析調査

地下の遺構面の維持・管理のため、専門家の指導・助言を頂きながら、適正な保存・管理を行うために遺跡保存処理検討会を2回実施する。また、遺跡の状態を把握するための各種分析調査を実施する。

保存処理検討会 第1回: 11月予定・第2回: 2月予定

③野外展示「氷河期の森」植生検討会・植生景観調査

野外展示「氷河期の森」の植栽植物の維持管理のため、植生検討会2回と植生調査を行い、氷河期の森の維持について専門家の指導を受け、補植などを実施する。また、植生検討会は縄文の森広場と連携して実施し、植物の構成種の相違を活かした2つの異なる森づくりとその利活用を検討していく。

第1回植生検討会: 5月28日(火) 10:00 ~ 15:30

地底の森ミュージアム・縄文の森広場

第2回植生検討会: 11月予定

地底の森ミュージアム・縄文の森広場

植生調査・景観調査 6 ~ 12月

(4) 縄文の森広場との連携事業

- ・縄文春まつり 5月11日(土)
- ・縄文夏まつり 7月15日(月・祝)
- ・縄文秋まつり 10月12日(土)
- ・地底の森フェスタ2019 10月14日(月・祝)
- ・縄文冬まつり 2月9日(日)

(5) 資料の収集・保管

①常設展示関係

仙台市教育委員会で所蔵する常設展示に関する資料を借用し保管する。

②保管資料

仙台市教育委員会が所蔵する旧石器時代・古墳時代に関する資料及び関係機関からの寄贈図書、購入図書、企画展実施のために製作した資料、寄贈資料などを収蔵する。

(6) 管理運営

「仙台市先史遺跡保存活用施設条例」に基づいた「指定管理者事業計画書」により管理運営を実施する。

(7) 刊行物

- ①ミュージアム通信 年4回
- ②企画展刊行物(展示図録, ポスター, チラシ)
- ③年報(縄文の森広場と合本)
- ④調査研究報告書(縄文の森広場と合本)
- ⑤リーフレット, パンフレット

6. 利用案内

●所在地

〒982-0012 仙台市太白区長町南四丁目3-1

●電話およびファクシミリ

T E L 022(246)9153 F A X 022(246)9158

●開館時間

午前9時～午後4時45分(入館は午後4時15分まで)

●入館料・共通券

市民利用施設使用料の見直しにより平成28年10月1日より入館料・共通券が下記のとおり改訂となった。

| 区 分 | 個人 | 団体 | 共通入場券 |
|-------|------|------|-------|
| 一般 | 460円 | 360円 | 490円 |
| 高校生 | 230円 | 180円 | 280円 |
| 小・中学生 | 110円 | 90円 | 150円 |

- ・団体は30人以上, 引率者は30人につき1人無料
- ・「地底の森ミュージアム」「仙台市縄文の森広場」共通入場券

●休館日

月曜日(休日は開館)

休日の翌日(休日, 土・日曜日にあたる日は開館)

1月～11月の第4木曜日(休日は開館)

くん蒸のため臨時休館(12月25日～12月27日)

年末年始(12月28日～1月4日)

●交通案内

- ・地下鉄南北線長町南駅より西へ徒歩約5分
- ・JR 東北本線長町駅より西へ徒歩約20分
- ・東北自動車道 仙台南インターより東へ約7km

E-mail:t-forest@coral.ocn.ne.jp

URL:<http://www.sendai-c.ed.jp/~bunkazai/~chiteinomori/>



[仙台市縄文の森広場]

1. 平成30年度事業報告

(1) 展示事業

① 常設展示

○エントランスホール

当館の概要及び特長を紹介する映像が流れ、当館が完成するまでの軌跡を円形の壁面パネルにて展示している。壁面にある展示ケースでは、体験作品の見本やミニ企画展の拡張展示など、定期的に展示内容を変更している。平成30年12月1日(土)～平成31年2月28日(木)は、亥年にちなんで亥形土製品をプレゼントする企画を行い、さらにその展示も行った。期間中、プレゼントを受け取られた来館者(期間内に2回展示室見学・体験した方、もしくは亥年生まれの方)は合計150人であった。

展示ケース横では、麻製の服やバンダナなどの装飾品を来館者が自由に試着できる縄文ファッションコーナーを用意している。当館ボランティア製作の編布服や複式炉模型の展示や、オリジナルグッズの販売も行っている。

○ガイダンス展示室

<体験導入室1>「展示1 縄文ムラを発掘する」

山田上ノ台遺跡の発掘調査成果について、各種パネルや出土資料の展示などをとおして紹介している。床面には竪穴住居の出土状況写真も展示している。また発掘の原理、調査の実際などを模型やVTRを使って紹介している。



縄文ムラを発掘する

<体験導入室2>「展示2 縄文ムラがよみがえる」

山田上ノ台の縄文ムラの情景を模型で再現しているほか、模型を覗くスコープによって縄文時代の生活の様子を映像で紹介している。

・縄文学ラウンジ

縄文時代に関連した調べ学習ができるように、パソコンや関連図書を整備している。くわえて縄文時代に食べられ

ていたと考えられる木の実や雑穀などの実物も展示、紹介している。



縄文学ラウンジ

・縄文土器 年表&パズル

約12,000年間続いた縄文時代の、時期ごとの土器型式の違いを、仙台市内の遺跡とともに紹介するパネルと、3つの代表的な型式をもとに復元した土器の立体パズルを展示している。

・縄文時代の環境復元

縄文時代の植物環境についての説明パネルと、花粉が顕微鏡で実際どのように観察できるのか、モニター展示している。

・土器、石器がおしえてくれること

土器に残された痕跡から分かること、石器の用途などを紹介している。

<体験導入室2>「展示3 縄文ムラのくらしが見える」

・縄文人のすまいとくらし

竪穴住居の内部の様子を模型で紹介して、土器や石器などの出土品からわかった縄文人の生活を紹介している。



竪穴住居の模型

② 企画展示

今年度は「仙山交流」をテーマに、縄文時代の人々の生活などを仙台市内及び周辺の遺跡と山形県内の遺跡を交互に紹介し、写真パネルや出土した遺物を中心に展示する目的で3回実施した。

i) 春のコーナー展示

「仙山交流 in 仙台—上野遺跡と出土遺物—」

○会期：平成30年3月16日(金)～6月10日(日)

○開催日数及び入館者数：72日間 4,091人

○展示内容：仙台市太白区にある上野遺跡に焦点をあてて展示を行った。山田上ノ台遺跡の前の時期につくられた大きな集落で、発掘調査の写真パネルと出土した遺物などを紹介した。

○展示構成：展示趣旨・遺跡地図及び遺跡紹介文字パネル・写真パネル、出土した縄文土器、石器など。



展示風景

ii) 夏のコーナー展示

「仙山交流 in 山形—西海淵遺跡と出土遺物—」

○会期：7月13日(金)～10月21日(日)

○開催日数及び入館者数：85日間開催 3,269人

○展示内容：山形県村山市に所在する4500年前の縄文時代中期の大きなムラが発見された西海淵遺跡から発見された住居跡や縄文土器や石器などに焦点をあてて展示し、山形県内の縄文遺跡の理解を深めてもらうことを目的とした。

○展示構成：展示趣旨・遺跡位置図及び遺跡紹介文字パネル、遺跡や遺物の写真パネル紹介、西海淵遺跡出土の遺物など。



展示風景

iii) 冬のコーナー展示

「仙山交流 in 仙台 蔵王山麓の縄文ムラ—蔵王町谷地遺跡」

○会期：12月1日(土)～2月11日(月・祝)

○開催日数及び入館者数：55日間 706人

○展示内容：蔵王山麓に位置する縄文時代中期中葉の蔵王町谷地遺跡の土器や石器、土偶などの資料を展示し、県南に生活した縄文時代の人々の様子を紹介した。

○展示構成：展示趣旨・遺跡地図及び遺跡紹介文字パネル・写真パネルなど。



展示風景

③ 野外展示

i 縄文ムラと広場

野外には、竪穴住居を復元し、その他の遺構を表示している縄文ムラゾーンと、植物栽培などを行う広場ゾーンがある。それらの周りにはクリやコナラなどの森を復元し、縄文時代の環境を含めて、集落を再現している。



縄文ムラの環境の復元

・縄文ムラ（野外展示の東半部）

発掘調査では38棟の竪穴住居跡をはじめ、貯蔵穴、落とし穴などが多数見つかり、各遺構は主に見晴らしの良い台地の縁辺に沿って造られている。野外の東側には同時期に建っていたことがわかった竪穴住居3棟を復元し、また周囲には貯蔵穴や落とし穴、ゴミ捨て場などの遺構を表示し、縄文時代のムラの様子を再現している。

・復元住居について

3棟の竪穴住居の復元については、いずれもクリ材で骨組みを造り、土屋根タイプの構造を採用している。その中の14号住居はガイダンス展示室内にも一部を復元している。14号住居は地面を円形に掘り込んで平らな床をつくり、8本の柱を立て、屋根は土で葺いた竪穴住居である。

仙台市縄文の森広場

入口にあたる床の南側には、小石で囲まれた土器と大きな河原石の石組みなどからできた複式炉と呼ばれる大きな炉がある。

・広場（野外展示の西半部）

当時の広場と推定される場所を含めて西側一帯は、野外での縄文体験やイベント、縄文人が育てていた作物の栽培、体験活動を兼ねた発掘調査などを行う場として利用している。



14号復元住居（左）と9号復元住居（右）

ii 植生

野外にはムラや広場とともに、縄文時代の森の様子を推定復元している。当時の植生についてはこれまでの研究で、縄文ムラの近くには現在の雑木林に近い落葉広葉樹林の豊かな森が広がっていたことがわかっている。これらを参考にして、高木はクリ、クルミ、トチ、コナラなど、低木はタラノキ、ガマズミ、ミズキ、ニワトコなど、草本ではササ、チガヤ、キキョウなどを植栽している。また、「植生検討会」での指導・助言を受けて、森の維持管理・充実を図っている。



植生の復元

iii 縄文畑

野外広場の北西部には、縄文時代に栽培されていた可能性がある作物や有用植物の見本畑がある。現在はヒエ・アワ・キビの雑穀やエゴマ・ソバの他に、ヒョウタン、アケビ、ヤマブドウ、カラムシなどを育てている。



縄文畑



蔓植物栽培棚

(2) 普及啓発事業

① 夏休み子ども考古学教室

小学生と保護者がさまざまな縄文時代の体験活動を実施しながら縄文時代に関する理解を深め、縄文人の生活の様子や知識を学ぶ機会とすることを目的に実施した。火おこし・木の実のすり潰し体験・縄文風クッキーづくりなど親子で楽しめるメニューの体験活動を行った。

○8月19日（日） 10:00～14:00

参加者：13組41人



火おこし体験



縄文風クッキーづくり

② 長期休暇特別イベント

より多くの市民に当館に興味関心を持っていただくことを目的とし、市内小中学校の長期休暇期間にあわせて、普段とは異なる体験活動メニューを無料で実施した。

○夏休み特別イベント

8月6日(月)

参加者：延べ81人

貝のアクセサリーづくり

○秋休み特別イベント

10月6日(土)

参加者：延べ137人

石のころころピーズ

○冬休み特別イベント

1月6日(日)

参加者：延べ77人

クリのイガで草木染めコースター

○春休み特別イベント

3月23日(土)

参加者：84人

アルソミトラの種のグライダー



特別イベント

③ 発掘体験教室

一般対象の発掘体験教室

縄文人が生活していた時代の土に触れ、遺構や遺物を発見するなどの発掘体験を通して、歴史や当時の生活に興味を持っていただくことをねらいとした。昨年度に引き続き、

遺物包含層を調査対象として仙台市教育委員会文化財課が調査を実施した。期間中の10月10日(水)・13日(土)に小学5年生以上を対象として実施した。

講師…文化財課職員・当館職員

時間…10:00～12:00

○10月10日(水) 参加者：19人

○10月13日(土) 参加者：13人



発掘体験教室

④ 発掘資料整理体験教室

山田上ノ台遺跡の発掘調査で出土した土器や石器などの遺物に触れ、歴史を身近に感じてもらうねらいで実施した。実際の整理作業と同じような洗浄や拓本取りの作業体験が主な内容であり、2回実施した。

講師…当館職員

時間…10:00～14:00

○12月1日(土) 参加者：8人

○12月2日(日) 参加者：11人



発掘資料整理体験教室

⑤ 縄文の知恵と技を学ぶ

本事業は、縄文時代の人々の生活の技術や知恵を学ぶために大人も対象としてモノづくりを行った。

○シカの角編

シカの角を使って投槍器や腰飾を製作した。

日時：9月9日(日) 10:00～15:00

参加者：9人

○石器づくり名人とガラスの槍づくり

講師を迎え、石器づくりの実演とガラスを利用した石器

仙台市縄文の森広場

づくりを行った。

- ・日時：11月11日(日) 10:00～12:00
- ・参加者：18人
- ・講師：瀬下直人氏(遠軽町埋蔵文化財センター)

○How to 火起し

様々な火起しの方法について、実際に体験しながら学習した。

- ・日時：12月22日(土) 10:00～12:00
- ・参加者：8組15名



石器づくり名人とガラスの槍づくり



How to 火起し

⑥ 週末体験講座

火おこしや石器などによる調理体験を主体に竪穴住居周辺や工房を主会場とした「縄文生活体験」のほか、季節感を活かしたさまざまな縄文体験を実施した。各回定員を一般20人とし、事前申込み制で行った。今年度は6回の実施とした。

参加者アンケートによる満足度はどの回も高く、縄文時代に興味関心を持ってきている様子が見えてきた。

○6月16日(土) 16:00～19:30

「縄文生活体験」参加者：31人

○7月21日(土) 16:00～19:30

「縄文生活体験」参加者：16人

○9月15日(土) 15:00～18:30

「縄文生活体験」参加者：23人

○11月18日(日) 10:00～14:00

「干支の土製品をつくろう！」参加者：19人

○1月26日(土) 10:00～12:00

「おもしろ縄文体験 網代組みのコースターづくり」

参加者：4人

○3月2日(土) 10:00～15:00

「土器の凹みはどうしてできるの？ ～考古学者のお仕事体験～」

・参加者：20人



縄文生活体験



網代組みのコースターづくり

⑦ 縄文講座

多様な視点から、縄文時代についての理解を深めることを目的とした講座で3回実施した。

○第1回：「蔵王山麓の縄文遺跡を掘る！－蔵王町谷地遺跡－」

・日時：12月9日(日) 13:30～15:00

・参加者：43人

・講師：鈴木雅氏(宮城県蔵王町教育委員会生涯学習課)

○第2回：「砂丘につくられた縄文晩期の大規模墓地－五所川原市五月女菴遺跡－」

・日時：1月20日(日) 13:30～15:00

・参加者：78人

・講師：榊原滋高氏(五所川原市教育委員会社会教育課)

○第3回：「湖畔に営まれた縄文晩期の集落群－大崎市北小松遺跡ほか－」

・日時：2月17日(日) 13:30～15:00

・参加者：88人

・講師：小野章太郎氏(宮城県教育委員会文化財課)



第3回縄文講座

⑧ 縄文まつり

本事業では季節ごとに特色ある縄文まつりを4回開催した。特別体験、ゲーム、縄文食試食などの様々な体験活動を中心として実施した。コンサートタイムでは、市民サークルや市内小・中学校の吹奏楽部、プロの音楽家らに演奏を披露していただいた。

○縄文春まつり

- ・日時：5月13日(日) 10:00～15:00
- ・参加者：411人
- ・内容：土器の野焼き、弓矢体験、縄文ファッション、よりよりミサンガ、縄文風おやつ、地底の森ミュージアムコーナー、創作和太鼓「鼓逢」による演奏など。また、仙台・宮城観光PRキャラクター「むすび丸」も来場した。



よりよりミサンガ



創作和太鼓「鼓逢」

○縄文夏まつり

- ・日時：7月16日(月・祝) 10:00～15:00

- ・参加者：620人
- ・内容：カラムシから糸づくりで水ヨーヨー釣り、縄文クイズラリー、工作体験、縄文ファッション、縄文風おやつ、地底の森ミュージアムコーナー、「仙台市立人來田小学校 brass band」・「仙台市立金剛沢小学校合唱団」による演奏など。



カラムシから糸づくり



人來田小学校 brass band



金剛沢小学校合唱団

○縄文秋まつり

- ・日時：10月6日(土) 10:00～15:00
- ・参加者：293人
- ・内容：火おこし大会、つくって！縄文、工作体験、秋の縄文スープ試食、縄文ファッション、地底の森ミュージアムコーナーなど。



火おこし大会



縄文スープ試食

○縄文冬まつり

- ・日時：2月3日(日) 10:00～15:00
- ・参加者：388人
- ・内容：石器づくり見学，ワラダ投げコーナー，縄文スープの試食，お絵かき・紙工作，地底の森ミュージアムコー



上野山小学校若杉バンド



オカリナ縄文会



高橋泉と縄文ジャズオーケストラ

ナー、「仙台市立上野山小学校若杉バンド」・「オカリナ縄文会」・「高橋泉と縄文ジャズオーケストラ」による演奏など。

⑨ 縄文のまつり復元と創造プロジェクト

事業団の自主事業で、市民と協働で縄文時代のまつりを復元・創造するプロジェクト。楽器製作などの活動を8月4日(土)～3月3日(日)にかけて7回行い、延べ97人が参加した。

また、7月7日(土)と8日(日)の2日間にわたり、「草舟づくり」を行った。さらに、その成果の報告として10月20日(土)に縄文の森広場を会場として「縄文人の記憶の宴」を実施した。

○草舟づくり

NPO 笹舟や地域団体の上小会などの協力を得て「草舟づくり」を実施し、広瀬川に浮かべて乗船体験を行った。

・日時 ①7月7日(土) 9:00～16:00

②7月8日(日) 9:00～12:00

・会場：広瀬川宮沢橋緑地公園 参加者：54人

○縄文人の記憶の宴

i) 山田上ノ台遺跡の発掘調査見学会

縄文時代の生活やまつりの様子について理解を深めてもらうために、山田上ノ台発掘調査現場の見学を実施した。

・日時：10月20日(土) 15:00～16:00

ii) 「縄文人の記憶の宴」

本編は、縄文時代のまつりを、市民や音楽家、劇団員などと協働して企画・運営を行い、「火起こし」・「縄文風の演奏」・「祀りの儀式」・草舟を燃やし「炎の儀式」・「舞の儀式」を実施した。

・日時：10月20日(土) 16:00～18:00

・参加者：110人

iii) 「縄文人の記憶の宴」

10月に実施した同イベントが雷雨のため途中中止となったため、3月に再演を行った。

・日時：3月24日(日) 16:00～18:00

・参加者：213人



縄文人の記憶の宴

⑩ 学校・地域連携促進事業

事業団の自主事業。山田上ノ台遺跡や縄文文化とは何であるのかを地域の人々に知っていただく機会を設け、近隣の小中学校や地域の市民センター・児童館との結びつきを深めることで、縄文の森広場がより地域に根差した施設となることを目的とする事業である。

i) 「ドキ土器チョコレート」

山田上ノ台遺跡出土土器の特徴を知ってもらうため、ミニチュアサイズのシリコン型にチョコレートを流しこんで、土器チョコをつくるイベントを実施した。

- ・日時：2月11日(月・祝) 10:00～12:30
- ・参加者：6組14人
- ・日時：3月10日(日) 10:00～12:30
- ・参加者：6組14人

ii) 「土器を食べちゃえ！～土器片形クッキー“ドッキー”をつくろう～」

山田上ノ台遺跡出土土器の特徴を知ってもらい、土器片そっくりのクッキー「ドッキー」づくりを通じて、山田上ノ台遺跡及び縄文文化について学ぶイベントを外部講師を招いて実施した。

- ・日時：2月23日(土) 13:00～16:00
- ・参加者：11人
- ・講師：下島綾美氏(お菓子作り考古学者ヤマラ)
- ・対象：上野山児童館利用小学生の親子



ドキ土器チョコレート



ドッキーをつくろう

⑪ 野外展示「縄文の森」の多目的活用「森でみつめる『じょうもん』」

事業団の自主事業。縄文時代の植生を復元した野外展示を、地域住民や学校と共につくりあげることを目的とした事業で、近隣の太白小学校1,2年生を対象として、太白山自然観察の森でクリヤクヌギなどの種を採取し、植え付けを行った。

第1回

- ・日時：10月2日(火) 9:30～11:30
- ・対象：太白小学校1年生
- ・会場：仙台市太白山自然観察の森
- ・参加者：27名

第2回

- ・日時：3月5日(火) 9:30～11:30
- ・対象：太白小学校2年生
- ・会場：太白小学校
- ・参加者：51名



森でみつめる「じょうもん」

⑫ 3館連携事業

平成26年度から縄文の森広場・山田市民センター・上野山児童館の3館が共催している事業である。縄文時代の生活体験を通して、山田上ノ台遺跡周辺の自然と歴史に親しみながら、学区を超えた子供同士の交流を図り、地域活動をしていくことを目的としている。「火おこしをして、縄文スープを作ろう」などのテーマで開催してきた。

平成30年度は3館の日程の調整がつかず中止となった。

⑬ 運営懇談会

当館の活動を紹介し、地域の町内会や小・中学校、市民センターなどの方々の意見をいただき、事業に反映させるために運営懇談会を2回開催した。

第1回 7月27日(金) 15人出席

第2回 2月14日(木) 16人出席

(3) 体験活動事業

① 各種体験活動

i) 随時体験

当施設の特徴の一つが、来館者が予約なしでいつでもメニューを選んで実施できる随時体験である。体験は一部の体験メニューを除き、室内の体験活動室で行っている。今年度は昨年度に引き続き全18種類の体験メニューを用意した。

体験内容は、土器づくり(特大・大・小)、土偶づくり(大・小)、手形・足形づくり、土笛づくり、土面づくり、勾玉づくり、石のアクセサリーづくり、シカの角・サメの歯のアクセサリーづくり、編布コースター・マットづくり、釣針づくり、火おこし体験、石器づくり(5年生以上対象)などである。勾玉づくりや石のアクセサリーづくり、粘土に関する体験の人気の変わらず高いが、昨年度に比較して、石器づくり、編布コースターづくり、火おこし体験がやや減少した。



随時体験

ii) 団体の予約体験

平成30年度は145組の団体から見学・体験の申込みがあり、延べ人数は5,813人である。団体の内訳は市内の小・中学校を中心に、県外の小・中学校や子供会、デイサービスセンターなどである。体験活動は勾玉づくりや石のアクセサリーづくり、粘土に関する体験の人気の変わらず高い。中学校の自主研修や県外の修学旅行での利用も多い。

iii) 出前講座

小学校・市民センターなどの依頼で、職員が希望の場所

へ出向いて体験活動を行った。今年度は市内外の小学校や市民センターなど9団体に対応した。



出前講座

iv) 国際交流

東アジア考古学研究所(大韓民国)より招聘を受け、大韓民国の京畿道漣川郡全谷里で5月3日～7日に行われた「第26回漣川旧石器祭(教育博覧会・国際ワークショップ)」に地底の森ミュージアム職員と共に参加した。



漣川旧石器祭

② 学校教育との連携

i) 小・中学生の利用

学校の授業の一環として、地底の森ミュージアム及び当館が交通費(バス代)を負担し、体験活動と展示見学を組み合わせた学習活動を行う利用学習事業には、市内28の小・中学校1,917人の参加があった。開館以来継続して実施してきた利用学習事業が徐々に周知され、さらに平成23年度より新学習指導要領を意識した学校側の授業形態の変化が理由と考えられる。本事業の詳細は当館ホームページ上に公開している「利用学習実践報告」を参照されたい。

そのほか、社会科や総合的な学習の時間、社会見学など様々な目的で、市内及び県内の学校利用が多数みられた。最近では自主研修(班別)で、福島の小・中学校の利用が目立つ。修学旅行では秋田・岩手・山形県の小・中学校の利用が増えてきた。勾玉づくりなどの縄文体験を中心とした利用が目立っており、体験活動を重視する当館らしい利用法が選ばれている。



利用学習

ii) 博物館実務実習

大学で行われている博物館学の講義の一環として、学芸員資格取得のための実習を10月5日(金)～9日(火)に行った。館運営に関する講座のほか、縄文秋まつりの準備と実施、発掘体験教室の準備と実施、体験活動の指導法などの実習を行った。

参加者：石巻専修大学 学生2人

iii) 教職員機関研修

学校教育との連携をはかる事業の一環として、8月3日(金)に市内小中学校教員を対象に参加者を募集したが、応募者がいないため中止となった。

iv) 職場体験活動

11月に市内中学校3校から職場体験の申し込みがあり、対応した。当館の勤務内容を体験するとともに、事業内容などについても説明を行った。これまで来館者の立場で当館を利用した生徒もおり、職員にとっても来館者の生の声を聴くことのできる貴重な機会となった。

参加：人来田中学校4人、山田中学校4人、柳生中学校5人

(4) ボランティア活動事業

① ボランティア育成講座

ボランティア育成講座応募者1人を対象に計6回の講座を開催した。内容はボランティア活動の内容、体験活動の技術研修、類似する他施設等の視察などである。既登録ボランティアスタッフのスキルアップ研修も兼ねており、積極的な参加を呼びかけた。また、類似施設の視察研修については、地底の森ミュージアムと連携して行い、両館のボランティアが交流する機会とした。

第1回4月8日(日) 10:00～12:00[参加者：2人]

オリエンテーション・施設見学・火起し

講師：館職員

第2回4月22日(日) 10:00～15:00[参加者：5人]

土器・土製品づくり 講師：館職員

第3回5月13日(日) 9:00～15:00[参加者：1人]

野焼き 講師：館職員

第4回6月3日(日) 10:00～12:00[参加者：1人]

各種アクセサリづくり 講師：館職員

第5回6月24日(日) 13:00～16:00[参加者：1人]

修了式・ボランティア活動の実際・定例会

講師：ボランティアスタッフ・館職員

第6回10月17日(水) 8:00～17:00[参加者：両館

合計17人]

発掘調査の視察研修(岩手県奥州市埋蔵文化財センターほか)



視察研修

② ボランティア会との連携

仙台市縄文の森広場ボランティア会は、当館の運営をあらゆる面で支えるボランティアスタッフが運営する組織である。平成18年5月28日に設立され、今年度は68人が会員となった。

館と会との連絡・調整は、毎月第4日曜日の定例会を中心に行っている。ここでは、館から翌月の事業に対する協力要請を説明したり協議したりしながら、サポート体制の構築をはかっている。

会の中では、ボランティア各自が興味関心のあるテーマごとに班を作り、研修を行っている。編布班では縄文服の製作、土器班では土器づくりに取り組むなどの活動が見られる。そのほかの活動として、ミュージアムグッズの製作が挙げられる。ボランティアによる手作りの「勾玉」・「編布」・「土製品」はいずれも好評を得ており、修学旅行の子どもたちや家族づれに特に人気が高い。

以上のような、多岐にわたるボランティア会のさまざまな活動は、当館をより魅力的なものとするうえで非常に重要な役割を担っている。館とボランティア会との連携を、今後より多方面に展開し、強化していきたい。

(5) 調査・研究事業

① 体験プログラムの開発

体験施設である当館にとって、新規体験プログラムの開発は来館者に飽きを感じさせないための重要な用件である。既存体験メニューの見直し、体験内容と縄文文化をより分かりやすく紹介する方法、および新規プログラムの開発に取り組んだ。

② 復元住居の維持管理

当館の野外広場にて復元・公開している土屋根式竪穴住居を、より良好な状態で維持管理する方法について検討を行った。

③ ボランティアスタッフとの共同調査

縄文時代および当館の管理運営に関わる様々な内容について、ボランティアスタッフと共同で調査活動を行った。

④ 調査研究報告書

仙台市富沢遺跡保存館と合本で、『地底の森ミュージアム・縄文の森広場研究報告2018』を発刊した。「種子圧痕の検出率に関わる要因の一考察」「編み組み」ワークショップの検討・実施の報告」の2本の報告のほか、地底の森ミュージアムからも1本の報告が行われている。

2. 利用状況

平成30年度の開館日数は296日で、その間の全利用者数は30,907人であった。前年度の30,098人に比較すると、809人増となっている。

体験活動者数は12,682人(団体の複数体験者も含む)で、

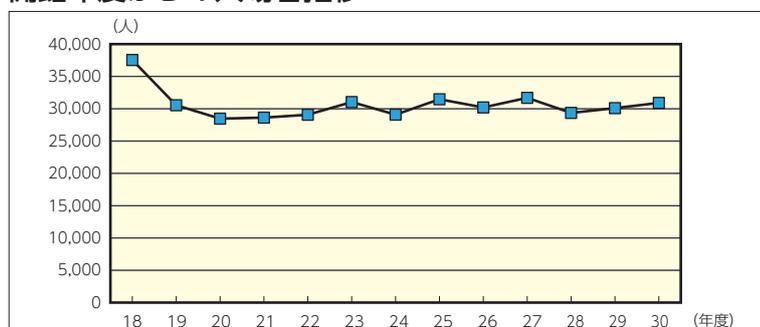
全利用者数の41%を占めており、例年とほぼ同様の傾向であった。体験活動内容では勾玉づくりが全体の33.8%を占めて最も多く、続いて石のアクセサリーづくり22.5%、ミニ土器・土偶づくり17.6%と続く。

なお、平成18年7月15日の開館から平成31年3月31日までの入館者の累計は398,123人である。

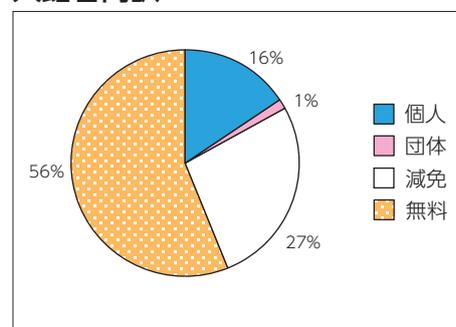
入館状況 (平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)

| 月 | 有 料 | | | | | | | 無 料 | | | | | 体験活動者 | | 合計 |
|----|-------|-----|------|-----|-----|------|-------|-------|-----|-------|--------|--------|--------------|-------|--------|
| | 個 人 | | | 団 体 | | | 計 | 減免 | | | 無料入館 | 計 | 内、団体体験重複者(-) | | |
| | 一般 | 高校生 | 小・中学 | 一般 | 高校生 | 小・中学 | | 一般 | 高校生 | 小・中学 | | | | | |
| 4 | 253 | 1 | 33 | 4 | 0 | 0 | 291 | 89 | 0 | 927 | 666 | 1,682 | 1,440 | 616 | 2,797 |
| 5 | 352 | 10 | 89 | 7 | 0 | 34 | 492 | 140 | 0 | 1,011 | 1,440 | 2,591 | 2,067 | 958 | 4,192 |
| 6 | 222 | 1 | 125 | 45 | 0 | 154 | 547 | 109 | 0 | 992 | 645 | 1,746 | 1,919 | 1,112 | 3,100 |
| 7 | 229 | 6 | 21 | 0 | 0 | 0 | 256 | 101 | 0 | 351 | 1,903 | 2,355 | 1,182 | 124 | 3,669 |
| 8 | 602 | 9 | 126 | 0 | 0 | 0 | 737 | 184 | 0 | 458 | 875 | 1,517 | 1,865 | 91 | 4,028 |
| 9 | 209 | 1 | 58 | 3 | 0 | 52 | 323 | 54 | 0 | 208 | 875 | 1,137 | 706 | 126 | 2,040 |
| 10 | 204 | 1 | 7 | 35 | 0 | 0 | 247 | 85 | 0 | 140 | 1,815 | 2,040 | 758 | 183 | 2,862 |
| 11 | 187 | 3 | 3 | 0 | 0 | 0 | 193 | 140 | 0 | 228 | 630 | 998 | 828 | 162 | 1,857 |
| 12 | 139 | 1 | 6 | 0 | 0 | 0 | 146 | 64 | 0 | 34 | 821 | 919 | 423 | 46 | 1,442 |
| 1 | 114 | 4 | 5 | 0 | 0 | 0 | 123 | 48 | 0 | 50 | 525 | 623 | 311 | 16 | 1,041 |
| 2 | 139 | 1 | 3 | 0 | 0 | 0 | 143 | 127 | 0 | 72 | 877 | 1,076 | 459 | 28 | 1,650 |
| 3 | 224 | 2 | 8 | 0 | 0 | 0 | 234 | 88 | 0 | 130 | 1,073 | 1,291 | 724 | 20 | 2,229 |
| 計 | 2,874 | 40 | 484 | 94 | 0 | 240 | 3,732 | 1,229 | 0 | 4,601 | 12,145 | 17,975 | 12,682 | 3,482 | 30,907 |

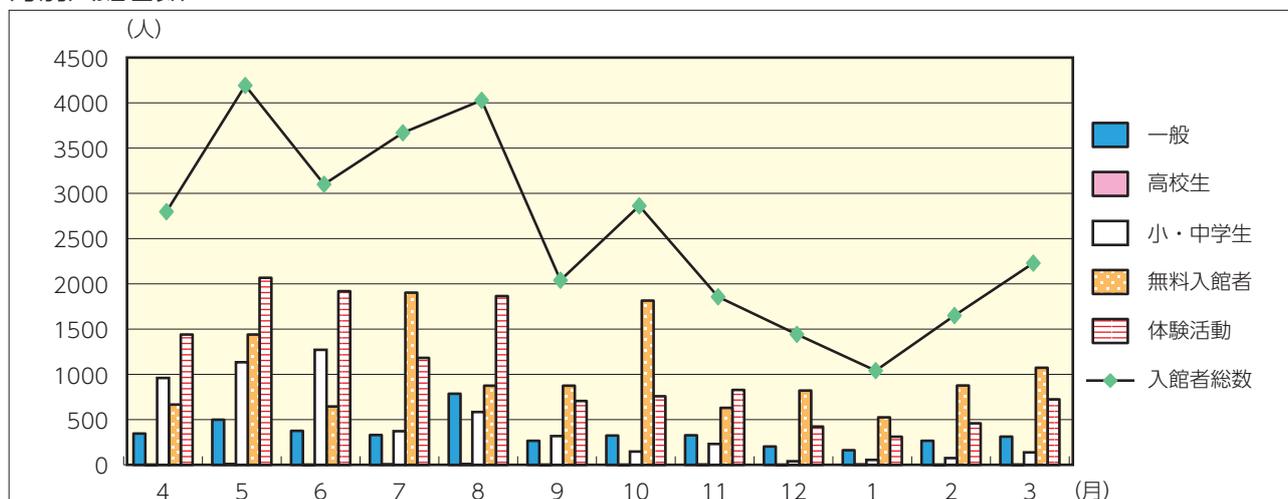
開館年度からの入場者推移



入館者内訳



月別入館者数

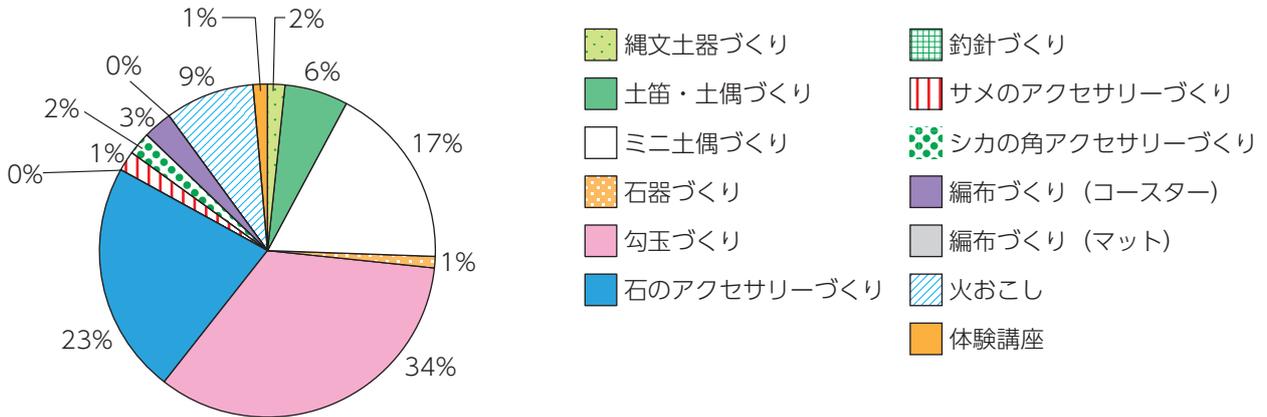


体験活動者数

(団体の複数体験も含む)

(単位：人)

| 月 | 体験メニュー | | | | | | | | | | | | | 合計 |
|----|---------|----------|----------|-------|-------|-------------|-------|---------------|---------------|--------------|------------|------|------|--------|
| | 縄文土器づくり | 土笛・土偶づくり | ミニ土製品づくり | 石器づくり | 勾玉づくり | 石のアクセサリーづくり | 釣針づくり | サメの歯アクセサリーづくり | シカの角アクセサリーづくり | 編布づくり(コースター) | 編布づくり(マット) | 火おこし | 体験講座 | |
| 4 | 4 | 119 | 187 | 25 | 339 | 334 | 2 | 12 | 21 | 23 | 2 | 114 | 0 | 1,182 |
| 5 | 64 | 224 | 187 | 21 | 775 | 327 | 4 | 23 | 23 | 21 | 1 | 67 | 0 | 1,737 |
| 6 | 2 | 21 | 235 | 21 | 732 | 553 | 4 | 16 | 9 | 13 | 0 | 132 | 25 | 1,763 |
| 7 | 64 | 96 | 130 | 11 | 285 | 119 | 3 | 11 | 36 | 33 | 0 | 97 | 14 | 899 |
| 8 | 12 | 72 | 230 | 23 | 416 | 276 | 2 | 39 | 44 | 53 | 1 | 147 | 13 | 1,328 |
| 9 | 1 | 25 | 193 | 5 | 125 | 101 | 1 | 20 | 9 | 15 | 0 | 38 | 26 | 559 |
| 10 | 4 | 12 | 127 | 2 | 204 | 130 | 0 | 11 | 13 | 13 | 0 | 52 | 0 | 568 |
| 11 | 1 | 13 | 120 | 9 | 199 | 126 | 2 | 18 | 16 | 34 | 1 | 82 | 28 | 649 |
| 12 | 3 | 11 | 113 | 6 | 73 | 37 | 1 | 4 | 27 | 9 | 6 | 19 | 10 | 319 |
| 1 | 2 | 14 | 68 | 1 | 48 | 53 | 3 | 8 | 6 | 2 | 2 | 23 | 4 | 234 |
| 2 | 4 | 8 | 51 | 4 | 96 | 98 | 1 | 13 | 8 | 20 | 0 | 32 | 0 | 335 |
| 3 | 8 | 16 | 139 | 5 | 116 | 112 | 0 | 17 | 10 | 31 | 0 | 66 | 0 | 520 |
| 計 | 169 | 631 | 1,780 | 133 | 3,408 | 2,266 | 23 | 192 | 222 | 267 | 13 | 869 | 120 | 10,093 |

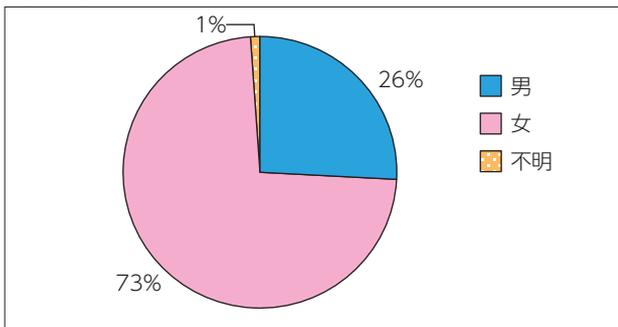


3. 入館者アンケート

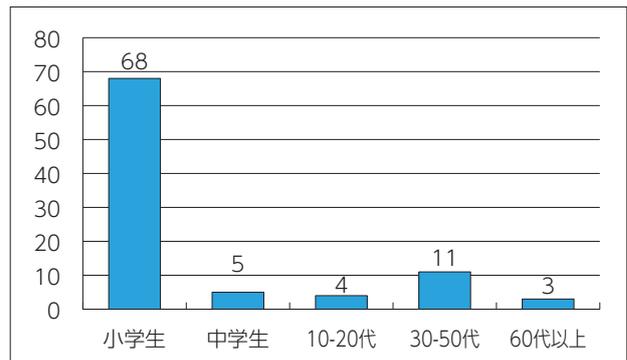
開館直後より1階の体験工房(冬期は体験活動室)と2階の展望休憩室の2箇所に、今後のより望ましい運営のあり方を探るために入館者アンケート用紙を設置しており、平成30年4月から平成31年3月末までに総数91人の方に

回答をいただいた。約7割は小学生であり、その他の大人の方々も含めて、貴重なご意見やご提案を多数お寄せいただいた。その中には、2階の展望休憩室に設けた「お答えしますコーナー」で回答し、館運営にすぐ取り入れさせていただいたものもある。その他のご意見も今後の改善にできるだけ反映させていきたいと考えている。

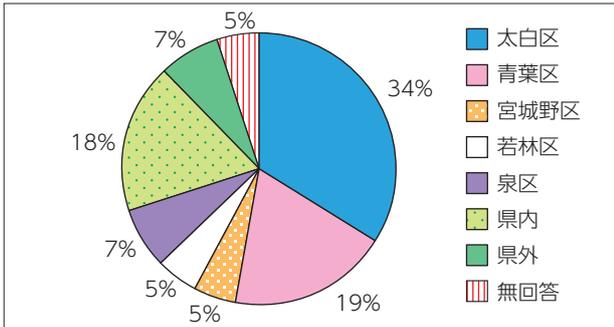
男女比



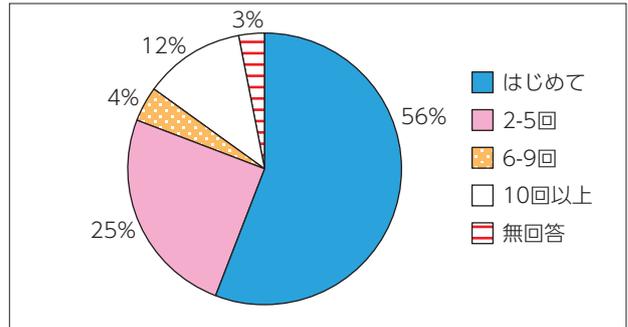
年代



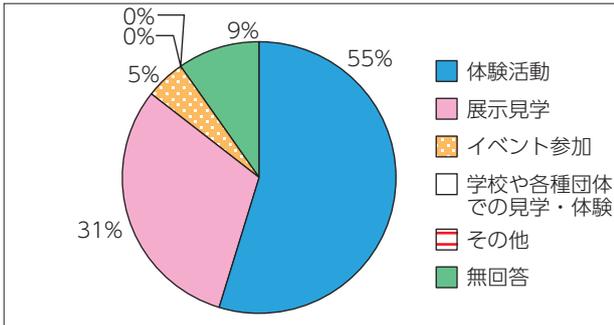
住まい



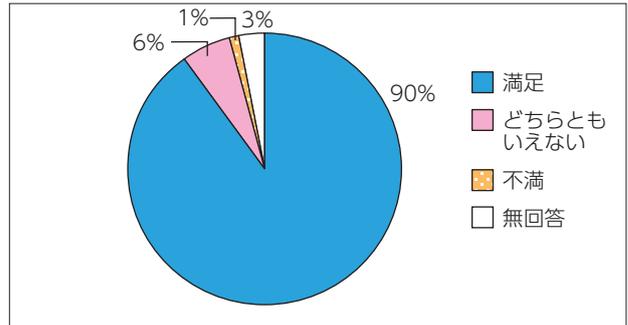
来館回数



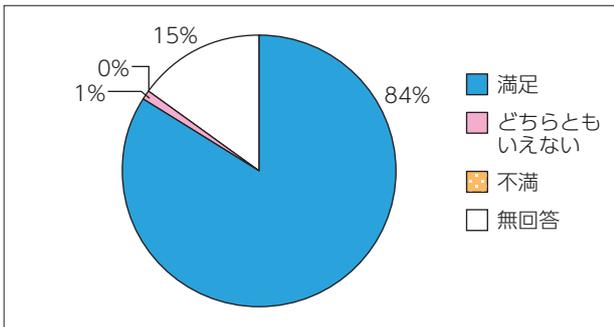
来館目的 (複数回答)



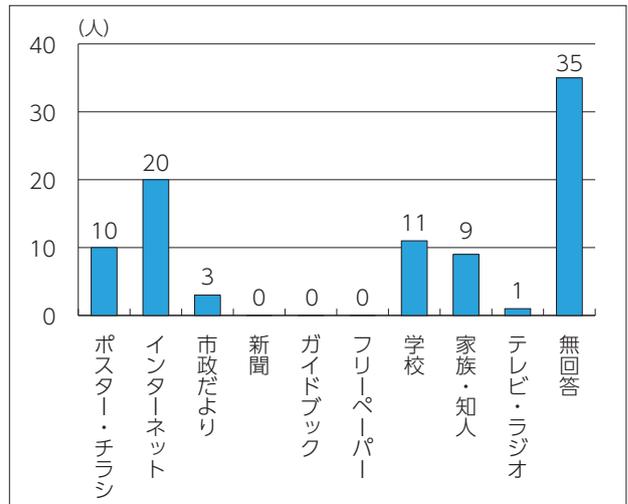
見学の満足度



体験の満足度



何で知ったか (複数回答)



4. 平成31年度・令和元年度事業計画

基本方針

仙台市先史遺跡保存活用施設条例及び指定管理事業計画に基づき、「人間と環境を考えるランドマーク」として地底の森ミュージアムと相互に補完し合いながら、山田上ノ台遺跡の保存と公開及び縄文時代の資料の保存・調査・活用を行う。また様々な展示・体験・講座等を通して「歴史」に学ぶ活動を展開する。併せて当館の特色として調査・研究活動の成果を基にした「自然と共生した縄文人の知恵」を体験活動などに展開し、芸術分野や他分野との積極的な交流を推し進めながら、各年代層に応じた豊かな「学び」の機会を提供する施設を目指す。

(1) 展示事業

① コーナー展示

コーナー展示3回を実施する。

- ・春のコーナー展示「仙山交流 in 仙台一下ノ内浦遺跡と出土遺物」平成31年3月15日(金)～6月9日(日)
- ・夏のコーナー展示「東北の縄文遺跡(1)山形県尾花沢市漆坊遺跡」7月13日(土)～10月20日(日)
- ・冬のコーナー展示「東北の縄文遺跡(2)」(仮称)12月1日(日)～2月11日(火・祝)

- ・春のコーナー展示「東北の縄文遺跡(3)」(仮称)

3月14日(土)～6月7日(日)

② 野外展示「縄文の森広場」植生検討会

第1回植生検討会：5月28日(火)10:00～15:30

縄文の森広場・地底の森ミュージアム

第2回植生検討会：11月予定

縄文の森広場・地底の森ミュージアム

(2) 普及啓発事業

① ボランティア育成講座

新規のボランティア15名を募集し、来館者や参加者により分かりやすい説明や体験活動の補助を行うための研修事業。現ボランティアのスキルアップ研修も兼ねる。

- ・第1回講座：開講式など

4月7日(日)10:00～12:00

- ・第2回講座：土器・土製品づくり

4月21日(日)10:00～15:00

- ・第3回講座：野焼き・火起こし

5月11日(土)10:00～15:00

- ・第4回講座：勾玉・アクセサリーづくり

6月2日(日)10:00～15:00

- ・第5回講座：修了式・「ボランティア活動の実際」

6月23日(日)11:00～16:00

- ・第6回講座：類似施設の視察

10月9日(水)8:30～17:00

② 縄文講座

縄文時代研究に関する講演会を実施し、最新の研究状況を取り上げる。

- ・第1回講座「縄文最新研究 最前線①」

12月8日(日)13:30～15:00

- ・第2回講座「縄文最新研究 最前線②」

1月19日(日)13:30～15:00

- ・第3回講座「縄文最新研究 最前線③」

2月16日(日)13:30～15:00

③ 縄文まつり(コンサート含む)

季節ごとに開催する。春・秋には体験や縄文に関係したゲームなどを実施し、夏・冬には体験や縄文に関係したゲームなどのほか、コンサートも実施する。

- ・縄文春まつり 5月11日(土)10:00～15:00

- ・縄文夏まつり 7月15日(月・祝)10:00～15:00

- ・縄文秋まつり 10月12日(土)10:00～15:00

- ・縄文冬まつり 2月9日(日)10:00～15:00

④ 夏休み子ども考古学教室

土器づくり、縄文食づくりなどの様々な体験を行う。

日時：8月18日(日)10:00～14:00

⑤ 特別イベント

縄文時代や歴史に関わる、普段とは異なる体験メニューを行うイベントを行う。

日程：夏休み(8月4日)、秋休み(10月12日)、冬休み(1月5日)、春休み(3月29日)

⑥ 週末体験講座

様々な作品づくりや生活体験などを実施し、縄文人の技と心を学ぶ。

日程：6月16日、7月21日、9月14日、11月17日、1月26日、3月8日(土又は日/時間は回により異なる)

⑦ 発掘調査体験教室

敷地内で行われる発掘調査に参加する体験、出土遺物の水洗・拓本などの整理作業に参加する体験を行う。

発掘体験＝10月16日(水)・20日(日)10:00～12:00(希望者は15:00まで)

整理体験＝12月1日(日)10:00～14:00

⑧ 縄文の知恵と技を学ぶ

本格的な縄文作品づくりを体験する教室を行う。

日時：9月8日(日)、11月10日(日)10:00～15:00

⑨ 利用学習事業【地底の森ミュージアムと合同して実施】

仙台市内の小学校5・6年生及び中学校1年生を主たる対象とし、地底の森ミュージアムと当館の見学と各種の体験学習を行う。

日程：学校側の希望による(通年)

⑩ 施設利用予約

利用学習事業参加校以外の学校、子供会、町内会等の各種団体を対象として展示解説や縄文体験を行う。

⑪ 随時体験

来館者に様々な縄文体験メニューを提供する。参加者の利便性を高め、より多くの市民が気軽に当館を訪れ体験活動に参加できるよう予約なしで随時受け入れる。

⑫ 出前講座

学校や市民センターなどからの依頼により、職員が希望の場所へ出向いて体験活動を行う(通年)。

⑬ 教職員研修【地底の森ミュージアムと合同して実施】

学校教育との連携事業を推進するために、仙台市内の教職員を対象(定員20名)として当館の概要及び体験活動事業を周知する機会とする。

日時：8月2日(金)9:00～12:00

⑭ 野外展示「縄文の森」の多目的活用「森でみつめる『じょうもん』」

野外展示「縄文の森」の利活用の幅を広げるために、地域の団体や小学校などと連携し、専門家の指導を受けて太白山自然観察の森で生育するクリなどを採取し育てる事業を

行う。

太白小1年生を対象 10月頃実施予定

⑮ **博物館実務実習**

学芸員資格取得をめざす大学生を数名受け入れ、実習を行う。

日時：10月中旬(計5日間)9:30～16:00

⑯ **職場体験・インターンシップ**

近隣中学校の要請により、中学2年生を対象とした職場体験の受入れなどを行う。

日程：11月～12月頃(学校の希望による)

⑰ **情報発信**

- ・ホームページの更新
- ・フェイスブックの更新
- ・館内の情報提供(掲示物：発掘調査情報、他施設イベント情報)

⑱ **ボランティア会との連携**

- ・定例会開催と館運営の協力依頼
- ・自主的な会活動に対する支援
- ・ミュージアムグッズの共同開発と制作販売の支援

⑲ **地域と連携**

町内会などの地域住民の行事に対しては、共催や後援等の形で活動の場を提供しながら支援を行う。

⑳ **運営懇談会** 7月26日(金), 2月14日(金)

㉑ **専門研修** 2月27日(木)

㉒ **事業団の自主財源事業**

i) 縄文祭復元事業「縄文まつり復元と創造プロジェクト」

・縄文人の記憶の宴 10月19日(土)

ii) 学校・地域連携促進事業「縄文まるかじり」

・「ドキ土器チョコレート」づくり 2月上旬予定

・「土器を食べちゃえ!土器片形クッキー“ドッキー”をつくろう」 2月後半予定

iii) 縄文の森オリジナルグッズ制作販売

(3) 調査・研究事業

① 縄文時代に関する調査研究

② 体験活動メニュー、プログラムに関する調査研究

③ 復元住居の経年変化等観察記録・分析にもとづく維持管理に関する調査研究

④ 西側広場一帯の整備に向けた調査研究

⑤ ボランティアスタッフとの共同調査研究の実施

⑥ 上記の研究成果をまとめた調査報告書を地底の森ミュージアムと合本で刊行

⑦ 2020年度コーナー展示の資料調査

(4) 資料の収集・保管

① 仙台市から借用保管している山田上ノ台遺跡等の縄文時代を中心とした資料を適切に管理し、各種事業活動に活かす。

② 事業活動の充実を図るため、縄文時代を中心とした資料、及び縄文時代に関する文献の収集を行う。

(5) 管理運営

「仙台市先史遺跡保存活用施設条例」に基づいた「指定管理者事業計画書」により管理運営を実施する。

(6) 刊行物

① ミュージアム通信年4回(6月・9月・12月・3月)

② イベント紹介チラシ年2回(9月・3月)

③ 年報(地底の森ミュージアムと合本)

④ 調査研究報告書(地底の森ミュージアムと合本)

⑤ リーフレット, パンフレット

5. 利用案内

●所在地

〒982-0815 仙台市太白区山田上ノ台町10番1号

●電話およびファクシミリ

TEL 022(307)5665 FAX 022(743)6771

●開館時間 午前9時～午後4時45分

(体験受付は午前9時～11時30分／午後12時30分～3時, 入館は午後4時15分まで)

●入館料・共通券

| 区分 | 個人 | 団体 | 共通入場券 |
|-------|------|------|-------|
| 一般 | 200円 | 160円 | 490円 |
| 高校生 | 150円 | 120円 | 280円 |
| 小・中学生 | 100円 | 80円 | 150円 |

- ・団体は30人以上, 引率者は30人につき1人無料
- ・「地底の森ミュージアム」「縄文の森広場」共通入場券

●休館日

月曜日(休日は開館)・休日の翌日(休日, 土曜・日曜日にあたる日は開館)・1月～11月の第4木曜日(休日は開館)・年末年始(12月28日～1月4日)

●交通案内

【バス】

県庁市役所～仙台駅～長町駅より宮城交通バス「秋保」「日本平」「茂庭台」「南ニュータウン」行きにて, 八木山動物公園駅バス停より宮城交通バス「日本平」行きにて

「山田・太白消防署前」停留所下車徒歩5分

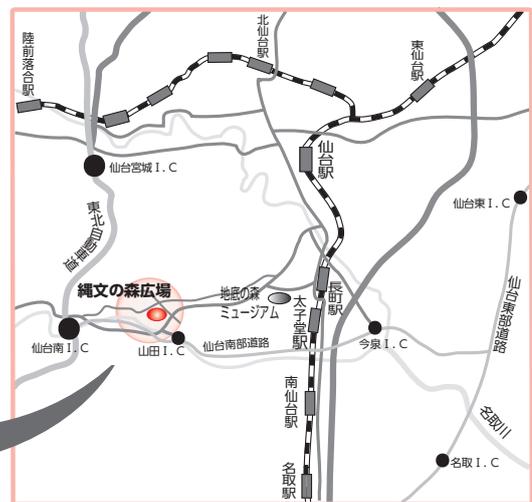
【車】

東北自動車道：仙台南インターから約4km

仙台南部有料道路：山田インターから約1km

E-mail : j-hiroba@cap.ocn.ne.jp

URL : <http://www.sendai-c.ed.jp/~bunkazai/~jyoumon/>



地底の森ミュージアム・縄文の森広場年報 2019

発行日 令和元年9月27日

発行 仙台市教育委員会
〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-5-12 上杉分庁舎 TEL (022) 214-8892

編集 (公財) 仙台市市民文化事業団 仙台市富沢遺跡保存館
〒982-0012 仙台市太白区長町南4-3-1 TEL (022) 246-9153

印刷 今野印刷株式会社
〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-10 TEL (022) 288-6123



この印刷物は再生紙を
使用しています。